

0001 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：基礎

建築物におけるIPM（総合的有害生物管理）の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．有効な複数の技術を組み合わせ、人の健康リスクと環境負荷をできるだけ小さくしながら有害生物を管理する考え方である。
- イ．発生の有無にかかわらず建物全体へ薬剤を大量散布する方法である。
- ウ．生息調査を行わず苦情箇所だけ処理する方法である。
- エ．有害生物を必ず完全ゼロにすることだけを目的とする。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。IPMは調査、環境整備、侵入防止、物理的防除、必要な薬剤等を組み合わせる。
- イ：誤り。IPMは過度な薬剤依存を避ける。
- ウ：誤り。生息実態調査が基本要素である。
- エ：誤り。標準的な目標水準で管理する。

総合解説：IPMは調査、目標設定、環境整備・侵入防止、必要な防除、効果判定を循環させる管理体系である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0002 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：基礎

建築物衛生管理でいう「防除」の意味として最も適切なのはどれか。

- ア．薬剤による駆除だけを意味する。
- イ．発生・侵入を防ぐ予防と、既に生息している個体を駆除することの両方を含む。
- ウ．死骸の回収だけを意味する。
- エ．調査記録だけを意味する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。発生源対策や侵入防止も含む。
- イ：正しい。防除は予防と駆除を含む概念である。
- ウ：誤り。防除全体の一部にすぎない。
- エ：誤り。調査は防除体系の一工程である。

総合解説：発生源対策、侵入防止、物理的防除、必要な化学的防除を総合して行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0003 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：基礎

特定建築物におけるねずみ等の発生場所、生息場所、侵入経路、被害状況の統一的調査頻度として適切なのはどれか。

- ア. 5年以内ごとに1回でよい。
- イ. 竣工時の1回だけでよい。
- ウ. 6月以内ごとに1回、定期に実施する。
- エ. 薬剤使用年だけ行えばよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。頻度が不足する。
- イ：誤り。継続調査が必要である。
- ウ：正しい。施行規則で6月以内ごとに1回の定期・統一調査が定められている。
- エ：誤り。薬剤使用の有無に関係なく必要である。

総合解説：調査結果に基づいて必要な発生防止措置を選択することが制度の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0004 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：基礎

食料取扱区域や排水槽、阻集器、廃棄物保管設備周辺など、特にねずみ等が発生しやすい箇所の調査として適切なのはどれか。

- ア. 10年以内ごとに1回でよい。
- イ. 一般区域より調査頻度を下げる。
- ウ. 苦情が出るまで調査しない。
- エ. 2月以内ごとに1回、生息状況等を調査する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。頻度不足である。
- イ：誤り。むしろ高頻度に確認する。
- ウ：誤り。予防的な定期調査が必要である。
- エ：正しい。技術上の基準では高リスク箇所を2月以内ごとに1回調査する。

総合解説：高リスク箇所では一般の6月周期より短い2月以内ごとの調査を行い、必要に応じ発生防止措置を講じる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0005 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：標準

生息調査でゴキブリが確認された厨房に対するIPMの初期対応として最も適切なのはどれか。

- ア．食品残渣や水分、隙間などの発生条件を改善し、侵入防止を行った上で必要な防除法を組み合わせる。
- イ．調査結果を無視して建物全体へ最大量の薬剤を散布する。
- ウ．清掃や隙間補修をせず薬剤だけ追加する。
- エ．何もせず自然消滅を待つ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。まず発生源対策・侵入防止を行う。
- イ：誤り。範囲と必要性を判断すべきである。
- ウ：誤り。再発条件を残す。
- エ：誤り。調査結果に応じた措置が必要である。

総合解説：IPMでは環境整備・侵入防止を基本に、トラップや薬剤等を状況に応じて組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0006 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：標準

特定建築物でねずみ等の防除に殺そ剤または殺虫剤を用いる場合、最も適切なのはどれか。

- ア．成分不明でも安価なら使用できる。
- イ．医薬品医療機器等法に基づく承認を受けた医薬品または医薬部外品を使用する。
- ウ．農業用農薬なら用途表示に関係なく室内に散布できる。
- エ．自家製薬剤を承認なしで使用する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。承認された製品を用いる。
- イ：正しい。施行規則第4条の5の要件である。
- ウ：誤り。対象用途に適合する薬剤を使う。
- エ：誤り。法令要件に適合しない。

総合解説：薬剤は承認、対象害虫、用法・用量、処理区域、安全性を確認して使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0007 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：標準

IPMで薬剤を使用する際の基本姿勢として最も適切なのはどれか。

- ア. 効果を上げるため使用量を無制限に増やす。
- イ. 利用者への影響は考慮しない。
- ウ. 薬剤の種類、薬量、処理法、処理区域を検討し、人や環境への影響をできるだけ小さくする。
- エ. 対象区域外にも常時散布する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。過剰使用はリスクを増す。
- イ：誤り。安全確保が必要である。
- ウ：正しい。防除効果と健康・環境リスクを両方考慮する。
- エ：誤り。必要範囲に限定する。

総合解説：リスクの少ない手段を優先し、薬剤使用時も範囲・量・方法を適正化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0008 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：標準

厚生労働省のIPM実施モデルで示される標準的な目標水準の区分として正しい組合せはどれか。

- ア. 正常水準、異常水準の2段階だけ。
- イ. 清掃水準、給水水準、空調水準。
- ウ. 基礎、標準、応用。
- エ. 許容水準、警戒水準、措置水準。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。3段階で示される。
- イ：誤り。IPMの管理水準ではない。
- ウ：誤り。問題難易度の区分である。
- エ：正しい。調査結果を3段階で評価して措置を選ぶ。

総合解説：許容は良好、警戒は今後問題化する可能性、措置は速やかな防除が必要な状態を表す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0009 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：標準

IPMで常に「生息数ゼロ」だけを目標にすることが適切とは限らない理由として最も適切なのはどれか。

- ア．過度な薬剤使用や過大な費用・負担を招くおそれがあるため、衛生上妥当な目標水準で管理する方が合理的だから。
- イ．有害生物は増えても健康影響がないから。
- ウ．調査が不要になるから。
- エ．薬剤が必ず無効だから。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。マニュアルは標準的目標水準による管理を示す。
- イ：誤り。一定水準を超えれば措置が必要である。
- ウ：誤り。目標管理には定期調査が必要である。
- エ：誤り。必要に応じて有効な薬剤も使用する。

総合解説：IPMは無条件の完全駆除ではなく、衛生上のリスクと対策負荷を踏まえて水準管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0010 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：標準

建築物でIPMを実施する際の体制づくりとして最も適切なのはどれか。

- ア．責任者を決めず全員が自由に薬剤を使う。
- イ．全体を統括する責任者を決め、各担当者の役割分担を明確にする。
- ウ．調査担当と防除担当の情報共有を禁止する。
- エ．記録担当を置かず口頭だけで管理する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。安全・品質管理ができない。
- イ：正しい。IPMの手順では組織づくりと役割分担が示される。
- ウ：誤り。調査結果を措置へ反映する必要がある。
- エ：誤り。経過を記録・保存する。

総合解説：責任体制を明確化し、調査、措置、評価、記録を連携させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0011 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：応用

IPM実施モデルに沿って建物内で薬剤処理を行う場合の利用者対応として最も適切なのはどれか。

- ア. 処理終了まで誰にも知らせない。
- イ. 掲示は処理直後に撤去する。
- ウ. 事前に区域管理者や利用者の了解を得て、処理前後少なくとも3日間は処理実施の旨を掲示する。
- エ. 乳幼児が常時いる区域ほど積極的に薬剤処理する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。事前周知が必要である。
- イ：誤り。処理前後の掲示が示される。
- ウ：正しい。マニュアルに示される利用者配慮である。
- エ：誤り。薬剤処理を避けるとされる。

総合解説：薬剤処理では防除効果だけでなく、情報提供と曝露防止を含むリスク管理を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0012 防除の基本・IPM＞IPMの考え方 | 難易度：応用

乳幼児が日常的に利用する区域で害虫が確認された。IPMの考え方に最も合う対応はどれか。

- ア. 在室中に高濃度薬剤を全面散布する。
- イ. 調査せず毎週薬剤を散布する。
- ウ. 餌・水・隙間を改善しない。
- エ. 環境整備、侵入防止、トラップ等を優先し、当該区域では薬剤処理を避ける。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。曝露リスクが高い。
- イ：誤り。IPMでは調査に基づく。
- ウ：誤り。環境整備が基本である。
- エ：正しい。高感受性者への曝露リスクを低減する。

総合解説：高感受性者がいる区域では非化学的対策を優先し、必要な場合も安全性を厳格に評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0013 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：基礎

IPMにおける生息実態調査の主な目的はどれか。

- ア. 有害生物の種類、密度、分布、発生場所等を把握し、必要な対策を選ぶ根拠とする。
- イ. 薬剤散布量を最大化するため。
- ウ. 記録を省略するため。
- エ. 苦情を無視するため。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。防除は調査結果に基づいて計画する。
- イ：誤り。必要最小限の防除につなげる。
- ウ：誤り。結果は記録する。
- エ：誤り。聞き取り情報も参考にする。

総合解説：種類・密度・分布・侵入経路・被害を把握して初めて適切なIPM計画が立てられる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0014 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：基礎

ねずみ等が特に発生しやすく重点調査が必要な箇所として最も適切な組合せはどれか。

- ア. 屋上の避雷針だけ。
- イ. 食料取扱区域、排水槽、阻集器、廃棄物保管設備の周辺。
- ウ. 未使用の図書だけ。
- エ. エレベーター表示盤だけ。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。代表的の高リスク箇所ではない。
- イ：正しい。餌、水分、潜伏場所を得やすい高リスク箇所である。
- ウ：誤り。一般的な重点箇所ではない。
- エ：誤り。重点管理箇所を代表しない。

総合解説：これらの箇所は2月以内ごとの調査対象となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0015 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：基礎

ねずみ等の環境調査で確認すべき内容として最も適切なのはどれか。

- ア. 建物の外壁色だけ。
- イ. 従業員の身長だけ。
- ウ. 清掃、整理整頓、食物管理、廃棄物管理、侵入可能な隙間や設備構造。
- エ. 空調温度だけで全て判断する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。生息条件の把握にならない。
- イ：誤り。害虫環境と関係しない。
- ウ：正しい。餌・水・巣・侵入経路となる条件を調べる。
- エ：誤り。複数要因を確認する。

総合解説：環境調査は発生原因を特定し、薬剤に頼らない発生源対策へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0016 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：標準

IPMの調査手順として最も適切なのはどれか。

- ア. 無作為にトラップ1個だけ置いて建物全体を判断する。
- イ. 目視だけで問題なしと決め証拠を記録しない。
- ウ. 生息しそうな場所を避けて調査する。
- エ. 十分な知識を有する者が全体を目視し、問題が疑われる場所ではトラップ等の客観的調査を追加する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。区域特性を反映できない。
- イ：誤り。必要に応じ客観調査を行う。
- ウ：誤り。疑わしい場所を重点的に調べる。
- エ：正しい。全体把握と重点的な客観調査を組み合わせる。

総合解説：目視、聞き取り、トラップ等を組み合わせ、発生実態を客観的に把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0017 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：標準

建築物で侵入経路を調査することがIPM上重要な理由はどれか。

- ア. 侵入口を閉鎖すれば薬剤を繰り返し使用せずに再侵入を減らせるため。
- イ. 侵入口を広げるほど捕獲しやすいから。
- ウ. 侵入経路は防除効果に関係しないから。
- エ. 薬剤量を増やすために調べるから。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。侵入防止は発生源対策と並ぶ基本対策である。
- イ：誤り。再侵入を増やす。
- ウ：誤り。重要な再発要因である。
- エ：誤り。非化学的対策に活用する。

総合解説：配管貫通部、扉、外周、排水系統等の侵入経路を把握し、構造的に遮断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0018 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：標準

対象生物そのものが見つからない場合の生息調査として最も適切なのはどれか。

- ア. 個体を見なければ必ず生息ゼロと断定する。
- イ. 糞、尿痕、足跡、かじり跡、卵鞘、ローチスポットなど対象に応じた証跡も確認する。
- ウ. 証跡は全て無視する。
- エ. 古い証跡と新しい証跡の区別は不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。潜伏性・夜行性の対象では見逃しがある。
- イ：正しい。直接目撃できなくても証跡から生息を推定できる。
- ウ：誤り。重要な生息情報である。
- エ：誤り。活動性の評価に重要である。

総合解説：対象生物の生態に応じた証跡と直接観察を組み合わせで判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0019 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：標準

利用者への聞き取り調査の位置づけとして最も適切なのはどれか。

- ア. 聞き取りだけで薬剤散布量を決める。
- イ. 利用者情報は全て誤りとして無視する。
- ウ. 目撃時刻や場所、被害状況を把握する補助情報として用い、目視やトラップ調査と組み合わせる。
- エ. 聞き取りをすれば現地調査は不要になる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。客観的調査も必要である。
- イ：誤り。重要な手掛かりになる。
- ウ：正しい。聞き取りは有用だが客観調査と併用する。
- エ：誤り。現地確認が必要である。

総合解説：目撃情報は時間帯・区域・頻度の把握に役立ち、重点調査の設計へ活用できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0020 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：標準

厨房、廃棄物保管室、一般事務室がある建築物の調査計画として最も適切なのはどれか。

- ア. 一般事務室だけ毎月調査し厨房は年1回にする。
- イ. 厨房で発生が多くても建物全体を10年に1回だけ調べる。
- ウ. 全区域で必ず同一周期にする。
- エ. 建物全体は6月以内ごとに統一調査し、厨房や廃棄物保管設備周辺は2月以内ごとに重点調査する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。高リスク箇所の頻度が不足する。
- イ：誤り。法定周期に適合しない。
- ウ：誤り。高リスク箇所は短い周期で調査する。
- エ：正しい。一般調査と高リスク箇所調査を組み合わせる。

総合解説：区域リスクに応じて頻度を変えることで早期発見と効率的なIPMが可能になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0021 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：応用

トラップ調査の精度を高める配置方法として最も適切なのはどれか。

- ア. 対象生物の移動経路、潜伏場所、餌場、水場、過去の捕獲地点を踏まえて配置する。
- イ. 置きやすい場所だけに均等配置し生息場所は考慮しない。
- ウ. 対象区域外だけに置く。
- エ. 毎回位置と数を記録しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。対象の生態と環境調査結果に基づく配置が必要である。
- イ：誤り。捕獲感度が下がる。
- ウ：誤り。実態把握ができない。
- エ：誤り。比較評価が困難になる。

総合解説：トラップ位置、期間、捕獲数を記録し、前後比較できるようにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0022 防除の基本・IPM>生息調査・環境調査 | 難易度：応用

防除後に捕獲数が再び増えた。原因調査として最も適切なのはどれか。

- ア. 薬剤量だけ直ちに倍増する。
- イ. 捕獲数だけでなく、食品管理、清掃、廃棄物、隙間、設備工事、周辺環境などの変化を再確認する。
- ウ. 過去の調査記録を破棄する。
- エ. 発生場所を閉鎖して調査しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。原因確認なしの増量はIPMに反する。
- イ：正しい。再発には環境条件や侵入経路の変化が関与し得る。
- ウ：誤り。比較に必要なである。
- エ：誤り。原因を把握できない。

総合解説：IPMでは密度だけでなく背景となる環境条件を追跡し、再発原因へ対処する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0023 防除の基本・IPM＞防除計画・記録・評価 | 難易度：基礎

防除作業計画を策定する際の基本として最も適切なのはどれか。

- ア. 調査なしで前年と同じ薬剤量を自動的に使う。
- イ. 対象生物を特定せず全て同じ方法で処理する。
- ウ. 生息調査と環境調査の結果に基づき、対象区域、目標水準、方法、人員、資材、日程を決める。
- エ. 評価方法を決めず実施して終わりにする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。現状に適合しない可能性がある。
- イ：誤り。対象と状況に応じる必要がある。
- ウ：正しい。調査結果を根拠に計画を作成する。
- エ：誤り。効果判定まで含めて計画する。

総合解説：IPM計画は調査→目標設定→措置→評価を一連の流れとして設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0024 防除の基本・IPM＞防除計画・記録・評価 | 難易度：基礎

調査結果が措置水準に該当した区域での対応として最も適切なのはどれか。

- ア. 次の6か月調査まで何もしない。
- イ. 環境整備をせず薬剤だけ無制限に使う。
- ウ. 記録を削除して問題をなかったことにする。
- エ. 発生源・侵入対策を行うとともに、必要に応じトラップや薬剤等による防除を速やかに実施する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。速やかな措置が必要である。
- イ：誤り。IPMでは環境的対策も行う。
- ウ：誤り。評価と再発防止に記録が必要である。
- エ：正しい。措置水準は速やかな防除が必要な状態である。

総合解説：措置水準では環境的・物理的・必要な化学的対策を組み合わせ、事後評価まで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0025 防除の基本・IPM>防除計画・記録・評価 | 難易度：標準

防除作業後の効果判定として最も適切なのはどれか。

- ア. 事前調査と同等の方法で再調査し、設定した目標水準を達成したか確認する。
- イ. 薬剤を使用した事実だけで成功とする。
- ウ. 作業者の感想だけで判定する。
- エ. 事前と全く異なる方法を用いて単純比較する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。前後比較できる方法で評価する。
- イ：誤り。生息密度を評価する必要がある。
- ウ：誤り。客観的再調査が必要である。
- エ：誤り。比較可能性が低下する。

総合解説：効果判定は生息密度や証拠を再確認し、目標水準の達成を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0026 防除の基本・IPM>防除計画・記録・評価 | 難易度：標準

防除後の評価で目標水準を達成できなかった場合、最も適切な対応はどれか。

- ア. 評価結果を書き換えて達成扱いにする。
- イ. 原因を調査し、防除方法や環境対策を見直して必要な措置を再実施する。
- ウ. 原因を調べず同じ失敗方法だけ繰り返す。
- エ. 記録を破棄して終了する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。品質管理にならない。
- イ：正しい。未達原因を分析して再作業する。
- ウ：誤り。改善が必要である。
- エ：誤り。再発防止に記録が必要である。

総合解説：IPMは一回限りの処理ではなく、評価結果に応じて修正する継続管理である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0027 防除の基本・IPM>防除計画・記録・評価 | 難易度：標準

IPMの記録として含めるべき内容として最も適切なものはどれか。

- ア. 薬剤購入価格だけ。
- イ. 実施者の私的感想だけ。
- ウ. 実施日時、場所、実施者、調査方法・結果、設定水準、措置内容、評価結果。
- エ. 作業後に全て廃棄する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。防除経過を評価できない。
- イ：誤り。客観的管理情報が必要である。
- ウ：正しい。防除経過を詳細に記録する。
- エ：誤り。保存して比較・検証に用いる。

総合解説：詳細な記録は再発傾向、対策効果、苦情対応、計画改善の根拠となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0028 防除の基本・IPM>防除計画・記録・評価 | 難易度：標準

一部区域だけが措置水準で、他区域は許容水準である。IPMに最も合う薬剤使用はどれか。

- ア. 建物全体に一律散布する。
- イ. 許容水準の区域ほど高濃度処理する。
- ウ. 薬剤以外の方法を検討しない。
- エ. 必要性を確認した上で処理範囲をできるだけ限定し、リスクの少ない製剤・方法を優先する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。不要な曝露を増やす。
- イ：誤り。調査結果と逆である。
- ウ：誤り。IPMは複数手段を組み合わせる。
- エ：正しい。調査結果に応じて範囲を限定する。

総合解説：薬剤は必要な場合に限定して用い、環境整備・侵入防止・トラップ等と組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0029 防除の基本・IPM>防除計画・記録・評価 | 難易度：応用

防除業務の管理体制として最も適切なのはどれか。

- ア. 苦情や緊急連絡に迅速に対応できる連絡先、責任者、対応手順をあらかじめ定める。
- イ. 緊急時の連絡先を非公開にする。
- ウ. 薬剤事故が起きても翌年まで報告しない。
- エ. 苦情は記録せず個人判断だけで処理する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。迅速対応できる体制が必要である。
- イ：誤り。対応を遅らせる。
- ウ：誤り。即時対応が必要である。
- エ：誤り。組織的対応と記録が必要である。

総合解説：薬剤事故、害虫大量発生、利用者苦情等への初動を明確化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0030 防除の基本・IPM>防除計画・記録・評価 | 難易度：応用

年間のねずみ等防除をIPMとして運用する流れとして最も適切なのはどれか。

- ア. 薬剤散布→終了を毎年繰り返す。
- イ. 体制整備→目標設定→調査→措置→効果判定→記録→必要な再措置、という循環を継続する。
- ウ. 苦情が出たら全面散布し、それ以外は何もしない。
- エ. 目標水準を設定せず捕獲数も記録しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。調査・評価・環境改善が欠ける。
- イ：正しい。調査と評価を繰り返して管理水準を維持する。
- ウ：誤り。予防的管理ではない。
- エ：誤り。効果判定ができない。

総合解説：IPMは継続的改善の仕組みであり、対策後も許容水準を維持するため定期調査を続ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0031 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：基礎

都市の建築物で衛生上問題となる代表的なねずみ3種の組合せとして最も適切なのはどれか。

- ア. ニホンリス、ムササビ、ヤマネ。
- イ. モグラ、ハクビシン、タヌキ。
- ウ. ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ。
- エ. スズメ、ハト、カラス。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。建築物の代表的な家住性ねずみ3種ではない。
- イ：誤り。ねずみ3種の組合せではない。
- ウ：正しい。東京都の防除資料でもこれら3種を代表的な家住性ねずみとして扱う。
- エ：誤り。鳥類である。

総合解説：種によって移動能力、営巣場所、侵入経路、薬剤・トラップへの反応が異なるため、種の推定は防除計画に重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0032 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：基礎

ドブネズミの特徴として最も適切なのはどれか。

- ア. 体長6～9cmで非常に小型である。
- イ. 尾を折り返すと鼻先より前に出て、耳が大きい。
- ウ. 羽を持ち飛翔する。
- エ. 体長はおおむね22～26cmで、尾を折り返しても鼻先まで届きにくく、耳は比較的小さい。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。ハツカネズミの特徴である。
- イ：誤り。クマネズミの特徴に近い。
- ウ：誤り。ねずみは哺乳類である。
- エ：正しい。東京都資料で示されるドブネズミの代表的特徴である。

総合解説：形態だけでなく、活動場所や証拠も組み合わせて種を推定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0033 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：基礎

クマネズミの特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．体長はおおむね15～20cmで、尾が長く、耳が大きく、比較のスリムな体型である。
- イ．体長22～26cmで尾が鼻先まで届かず耳が小さい。
- ウ．体長6～9cmで最も小型である。
- エ．水中生活だけを行う。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。尾を折り返すと鼻先より前に出ることが代表的特徴とされる。
- イ：誤り。ドブネズミの特徴である。
- ウ：誤り。ハツカネズミの特徴である。
- エ：誤り。建物内で高所も利用する。

総合解説：クマネズミは形態に加え、高い運動能力と建物上部を利用する生態が識別の手掛かりになる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0034 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：基礎

ハツカネズミの特徴として最も適切なのはどれか。

- ア．体長22～26cmで大型である。
- イ．体長はおおむね6～9cmと小型で、耳は比較的大きい。
- ウ．尾が非常に長く体長15～20cmである。
- エ．成体は必ず1m以上になる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。ドブネズミに近い。
- イ：正しい。3種の中で最も小型である。
- ウ：誤り。クマネズミに近い。
- エ：誤り。家住性ねずみとして不自然である。

総合解説：小型であるため小さな隙間にも侵入しやすく、倉庫や食品関連施設などで問題になることがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0035 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：標準

ドブネズミの生態として最も適切なのはどれか。

ア．電線を伝って高層階だけを移動することしかできない。

イ．乾燥した天井裏にしか生息しない。

ウ．地面に穴を掘ることがあり、泳ぎが得意で、建物の比較的低い場所や下水系統周辺で活動しやすい。

エ．水を極端に避け泳げない。

0036 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：標準

クマネズミの建物内での行動として最も適切なのはどれか。

ア．地面にしか移動できず高所へ上れない。

イ．排水管の中だけで生活する。

ウ．日中の開放空間だけで活動する。

エ．電線や配管を伝い、粗い壁面を上るなど高い運動能力を利用して建物上部へ移動する。

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。これはクマネズミの特徴に近い。

イ：誤り。低所や排水周辺も重要である。

ウ：正しい。地表・低所・排水系統との関連が強い。

エ：誤り。泳ぎが得意である。

総合解説：低層部、排水・下水、植込みの巣穴などを重点調査するとドブネズミの侵入経路を把握しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。高所利用が特徴である。

イ：誤り。天井裏や壁内など多様な場所を利用する。

ウ：誤り。主に人目を避けて活動する。

エ：正しい。クマネズミは垂直移動能力が高い。

総合解説：パイプシャフト、天井裏、配線・配管貫通部はクマネズミの移動・侵入経路として重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0037 ねずみ>種類・生態 | 難易度：標準

ハツカネズミについて最も適切な説明はどれか。

- ア．小型で、食品工場や倉庫、建築物内などで生息することがある。
- イ．都市建築物には絶対に侵入しない。
- ウ．3種の中で最も大型である。
- エ．建物内では食物を利用しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。東京都資料では食品工場等での生息例が示される。
- イ：誤り。建物内で問題になることがある。
- ウ：誤り。最も小型である。
- エ：誤り。食品等が誘因になる。

総合解説：小型であることを踏まえ、細い隙間、搬入物、倉庫等の侵入・生息条件を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0038 ねずみ>種類・生態 | 難易度：標準

ビル内のねずみの活動について最も適切なのはどれか。

- ア．必ず昼間だけ活動する。
- イ．採餌活動は主に夜間に行われるため、昼間に個体が見えなくても証跡調査が重要である。
- ウ．夜間は一切移動しない。
- エ．活動時刻は証跡調査と無関係である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。主な採餌活動は夜間である。
- イ：正しい。夜行性傾向があるため糞、かじり跡、足跡等を利用する。
- ウ：誤り。むしろ活動しやすい。
- エ：誤り。直接目撃しにくい理由となる。

総合解説：夜間活動を前提に、夜間の目撃情報や翌朝の餌喫食、足跡等を活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0039 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：標準

クマネズミの営巣場所として特に注意すべきものはどれか。

- ア. 水中だけ。
- イ. 屋外の水田だけ。
- ウ. 天井裏、壁内、電気機器や空調機器の周辺など、建物内部の高所・隠れた空間。
- エ. 人が常時踏み続ける床中央だけ。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。水中生活種ではない。
- イ：誤り。ビル内にも営巣する。
- ウ：正しい。ビル内部の多様な隠れ場所に巣を作る。
- エ：誤り。隠れた場所を選びやすい。

総合解説：高所の糞・こすり跡・かじり跡や、配管沿いの移動痕を確認するとクマネズミの活動把握に役立つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0040 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：標準

ドブネズミの活動場所として最も典型的なのはどれか。

- ア. 高層階の天井裏だけ。
- イ. 閉鎖された照明器具内部だけ。
- ウ. 乾燥した屋上だけに限定される。
- エ. 植込みの土中、下水・排水周辺、調理場の床付近など建物の比較的低い場所。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。クマネズミで注意する場所に近い。
- イ：誤り。代表的な活動場所ではない。
- ウ：誤り。低所・排水周辺が重要である。
- エ：正しい。地面に巣穴を掘り、低所を利用しやすい。

総合解説：種ごとの活動高さと侵入経路を把握すると、調査・トラップ・防鼠工事を効率化できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0041 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：応用

高層ビルの天井裏で糞が見つかり、配管や電線に沿ったこすり跡と壁面上部のかじり跡が確認された。最も疑うべき種はどれか。

- ア. クマネズミ。
- イ. ドブネズミだけと断定する。
- ウ. ハト。
- エ. チョウバエ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。高所利用と配線・配管を使った移動はクマネズミの生態に合う。
- イ：誤り。低所・地表活動が比較的多い。
- ウ：誤り。証跡と移動経路がねずみの特徴である。
- エ：誤り。昆虫であり証跡が一致しない。

総合解説：種判定は形態、活動高さ、証跡、侵入経路を組み合わせで行い、その種に適した対策へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0042 ねずみ > 種類・生態 | 難易度：応用

建物外周の植込みに巣穴があり、地下の排水周辺で大型のねずみと足跡が確認された。最も疑うべき種はどれか。

- ア. クマネズミだけと断定する。
- イ. ドブネズミ。
- ウ. チャバネゴキブリ。
- エ. ハツカネズミだけと断定する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。高所利用の特徴と合いにくい。
- イ：正しい。巣穴形成、低所、排水周辺の活動はドブネズミの特徴に合う。
- ウ：誤り。昆虫である。
- エ：誤り。小型種であり大型個体の情報と合いにくい。

総合解説：外周・地下・排水系の証跡はドブネズミの侵入対策を検討する重要な情報である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0043 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：基礎

ねずみの目視による証跡調査で確認する項目として最も適切なのはどれか。

- ア．壁紙の色だけ。
- イ．照明の明るさだけ。
- ウ．新しい糞、尿のシミ、足跡、かじり跡、こすり跡、巣、侵入口。
- エ．室温だけ。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。生息証跡ではない。
- イ：誤り。ねずみ証跡とはならない。
- ウ：正しい。維持管理マニュアルで例示される代表的証跡である。
- エ：誤り。環境条件の一部だが証跡そのものではない。

総合解説：証跡の新旧と分布を記録し、活動範囲や侵入経路の推定へ利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0044 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：基礎

ねずみの無毒餌による喫食調査の説明として、維持管理マニュアルに最も合うものはどれか。

- ア．毒餌だけを置き、喫食量は記録しない。
- イ．昼間10分だけ置いて必ず不在と判定する。
- ウ．餌を置いた場所を記録しない。
- エ．就業時間終了後に餌を配置し、翌日以後に回収して喫食の有無や量を調べる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。これは生息調査の方法として不適切である。
- イ：誤り。活動時間を考慮していない。
- ウ：誤り。分布評価ができない。
- エ：正しい。夜間活動を利用した客観的な生息調査である。

総合解説：無毒餌調査は発生疑い地点での活動の有無を把握し、防除前後の判断材料にできる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0045 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：基礎

ねずみの黒紙設置による調査として最も適切なのはどれか。

- ア. 天井点検口などにA4程度の黒い紙を置き、一定期間、足跡等が付くか確認する。
- イ. 黒紙を水中に沈めて鳴き声を測る。
- ウ. 黒紙を毎分交換して色だけ比較する。
- エ. 足跡が付いても生息証拠として扱わない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。マニュアルでは1～2週間程度の設置例が示されている。
- イ：誤り。調査目的と方法が異なる。
- ウ：誤り。足跡を確認する調査である。
- エ：誤り。活動証跡として重要である。

総合解説：目視しにくい天井裏などでは、足跡調査を無毒餌や証跡調査と組み合わせて生息判定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0046 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：標準

ねずみの目視調査で重点的に確認すべき場所として最も適切なのはどれか。

- ア. 来客の名簿だけ。
- イ. 厨房と周辺、食品売場、ゴミ集積場、機械室、電気室、天井裏、パイプスペース、外周部。
- ウ. 建物の広告看板だけ。
- エ. 屋外の雲量だけ。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。生息場所の確認にならない。
- イ：正しい。餌・水・隠れ場所や侵入経路になりやすい区域である。
- ウ：誤り。重点調査区域を代表しない。
- エ：誤り。ねずみの建物内生息調査とは関係しない。

総合解説：ねずみ調査は食品・廃棄物関連区域と、天井裏・機械室・外周など侵入・移動に関係する場所を重点化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0047 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：標準

高層階でクマネズミの証跡がある場合、特に確認すべき構造上の侵入・移動経路はどれか。

- ア. 床中央の平坦部分だけ。
- イ. 建物外の車両ナンバーだけ。
- ウ. パイプシャフト、配線・配管貫通部、天井裏など上下階を連続する隙間。
- エ. 照明の色温度だけ。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。垂直移動経路の把握にならない。
- イ：誤り。構造上の侵入経路ではない。
- ウ：正しい。クマネズミは配管・電線等を利用して垂直移動しやすい。
- エ：誤り。侵入経路評価とは無関係である。

総合解説：クマネズミ対策では上下階をつなぐ配管・配線経路とその開口部を調査し、防鼠工事へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0048 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：標準

地下厨房でドブネズミの出没があり、床面近くの証跡が多い。侵入経路調査として最も適切なのはどれか。

- ア. 天井中央だけを調べる。
- イ. 屋上アンテナだけを調べる。
- ウ. 侵入経路を調べず薬剤だけ増やす。
- エ. 排水系統、床下、外周の巣穴、扉下部など低所の開口部を重点的に確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。今回の生態・証跡情報から優先度が低い。
- イ：誤り。低所侵入の確認にならない。
- ウ：誤り。再侵入を防げない。
- エ：正しい。ドブネズミは低所・排水周辺を利用しやすい。

総合解説：種と証跡位置に応じて侵入経路を絞り込み、物理的閉鎖や設備補修を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0049 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：標準

ねずみの聞き取り調査で得る情報として最も有用なのはどれか。

- ア. 目撃場所・時刻、鳴き声、食品被害、かじり跡、過去の発生状況。
- イ. 利用者の好きな音楽。
- ウ. 社員番号だけ。
- エ. 建物の竣工式参加者数だけ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。活動範囲と時間帯を推定する手掛かりになる。
- イ：誤り。生息調査に直接関係しない。
- ウ：誤り。発生実態を示さない。
- エ：誤り。生息状況との関係が乏しい。

総合解説：聞き取り情報は目視・無毒餌・足跡調査の重点箇所を決める補助資料として使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0050 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：標準

維持管理マニュアルのねずみの許容水準に合う状態として最も適切なのはどれか。

- ア. 生きた個体を毎日確認する。
- イ. 生きた個体が確認されず、無毒餌の喫食がなく、黒紙にも足跡やかじり跡がない。
- ウ. 無毒餌の喫食と黒紙の足跡が両方ある。
- エ. 食品への咬害が多数ある。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。措置水準に該当し得る。
- イ：正しい。許容水準はこれら全てを満たす状態である。
- ウ：誤り。措置水準に該当する。
- エ：誤り。速やかな措置が必要な状態である。

総合解説：ねずみの水準判定は直接目撃だけでなく、喫食と足跡・かじり跡等の客観証跡を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0051 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：応用

生きたねずみは確認されていないが、無毒餌の喫食または黒紙の足跡・かじり跡のどちらか一方が確認された。標準的な水準として最も適切なのはどれか。

- ア．必ず許容水準。
- イ．必ず水準判定不能。
- ウ．警戒水準。
- エ．空気環境の措置水準。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。活動証跡が一つ確認されている。
- イ：誤り。モデルで判定条件が示されている。
- ウ：正しい。生体未確認で、喫食または黒紙証跡の一方がある場合は警戒水準とされる。
- エ：誤り。ねずみのIPM水準の話である。

総合解説：警戒水準では環境整備等を見直し、発生増加を防ぐ予防的措置が必要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0052 ねずみ > 調査・侵入経路 | 難易度：応用

ねずみの標準的な措置水準に該当する例として最も適切なのはどれか。

- ア．生体も証跡も全く確認されない。
- イ．調査自体をしていない。
- ウ．黒紙に何も付かず無毒餌も喫食されない。
- エ．生きた個体が確認された、または食品・什器の咬害がある、あるいは無毒餌の喫食と黒紙の証跡が両方確認された。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。許容水準に該当する。
- イ：誤り。水準判定の根拠がない。
- ウ：誤り。許容水準の条件である。
- エ：正しい。いずれか1つ以上で措置水準に該当する。

総合解説：措置水準では環境対策とともに、トラップや必要な薬剤等による防除を速やかに行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0053 ねずみ > 環境的・物理的・化学的防除 | 難易度：基礎

ねずみの環境的防除として最も適切なのはどれか。

- ア．食品を密閉保管し、厨芥類を適切に処理し、餌を利用できない環境にする。
- イ．食品を夜間に床へ開放しておく。
- ウ．ゴミ箱に厨芥類を付着させたままにする。
- エ．食器を未洗浄のまま放置する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。餌資源を断つことは発生源対策の基本である。
- イ：誤り。誘引・餌資源になる。
- ウ：誤り。餌を提供する。
- エ：誤り。餌資源を残す。

総合解説：食品・厨芥・水分の管理は薬剤を使わずにねずみの定着条件を減らす重要な対策である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0054 ねずみ > 環境的・物理的・化学的防除 | 難易度：基礎

厨房でのねずみ防除につながる清掃管理として最も適切なのはどれか。

- ア．残菜を機器の裏へ集める。
- イ．機器の上・下・裏、床、排水溝、グリース阻集器を清掃し、残菜や水分を残さない。
- ウ．床の水分を意図的に残す。
- エ．ダンボールを長期間積み上げる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。ねずみの餌になる。
- イ：正しい。餌・水・隠れ場所を減らす。
- ウ：誤り。水資源を与える。
- エ：誤り。隠れ場所・巢材になり得る。

総合解説：日常的な清掃と整理整頓は、薬剤効果に依存しない再発防止策である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0055 ねずみ > 環境的・物理的・化学的防除 | 難易度：標準

防鼠工事の目的として最も適切なものはどれか。

- ア. ねずみの餌を増やす。
- イ. 薬剤抵抗性を高める。
- ウ. ねずみが侵入・移動できる隙間や開口部を閉鎖し、建物内への再侵入を防ぐ。
- エ. 排水機能を意図的に止める。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。発生を助長する。
- イ：誤り。目的ではない。
- ウ：正しい。侵入防止はIPMの重要な物理的対策である。
- エ：誤り。建物衛生を損なう。

総合解説：防鼠工事は侵入前の予防または殺鼠対策後に行い、配管貫通部等を確実に閉鎖する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0056 ねずみ > 環境的・物理的・化学的防除 | 難易度：標準

殺鼠剤を使用する場合の考え方として最も適切なものはどれか。

- ア. 種類を確認せず同じ薬剤を無期限に使う。
- イ. 承認のない自家製毒餌を使用する。
- ウ. 利用者が触れやすい場所へ裸の毒餌を大量に置く。
- エ. ねずみの種類や喫食性、抵抗性等を考慮し、承認された製品を用法・用量に従って使用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。効果不良の原因を見逃す。
- イ：誤り。法令要件に反する。
- ウ：誤り。事故防止への配慮が必要である。
- エ：正しい。種や抵抗性により効果が異なるため適切な選択が必要である。

総合解説：薬剤はバイトステーション等で安全に配置し、喫食状況を点検しながら管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0057 ねずみ > 環境的・物理的・化学的防除 | 難易度：標準

殺鼠用の毒餌を設置した後の管理として最も適切なものはどれか。

- ア．初期は頻繁に点検して不足分を補充し、喫食がなくなるまで状況を追跡する。
- イ．設置後は一度も確認しない。
- ウ．毒餌がこぼれても放置する。
- エ．喫食が増えても記録しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。喫食量の変化を見ながら継続管理する。
- イ：誤り。効果と安全を管理できない。
- ウ：誤り。誤食事故の原因となる。
- エ：誤り。防除効果の判断材料を失う。

総合解説：毒餌は配置場所、量、喫食状況を記録し、安全に回収・補充する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0058 ねずみ > 環境的・物理的・化学的防除 | 難易度：標準

殺鼠剤の使用が困難または不適切な区域での防除として最も適切なものはどれか。

- ア．薬剤が使えなくても何もしない。
- イ．粘着式、圧殺式、生け捕り式など、環境とねずみの状況に応じたトラップを継続使用する。
- ウ．利用者が踏む通路中央へ危険なトラップを無表示で置く。
- エ．設置数や場所を記録せず紛失しても放置する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。トラップ等の選択肢がある。
- イ：正しい。非化学的な物理的防除を選択できる。
- ウ：誤り。事故防止が必要である。
- エ：誤り。安全・効果管理に反する。

総合解説：トラップは設置場所を記録し、継続的に確認・回収して効果を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0059 ねずみ > 環境的・物理的・化学的防除 | 難易度：応用

毒餌の喫食が十分あるのに個体数が減らず、殺鼠剤抵抗性が疑われる。最も適切な対応はどれか。

- ア. 同じ薬剤を無制限に増量する。
- イ. 環境整備を中止して餌資源を増やす。
- ウ. 抵抗性や薬剤選択、喫食状況を再評価し、必要に応じ薬剤変更やトラップ等の別手段を組み合わせる。
- エ. 効果判定を行わず成功扱いにする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。安全性と効果の両面で不適切である。
- イ：誤り。発生条件を悪化させる。
- ウ：正しい。効果不良の原因を調べて防除法を修正する。
- エ：誤り。再評価が必要である。

総合解説：抵抗性が疑われる場合は薬剤だけに依存せず、環境・物理・化学的手段を再構成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0060 ねずみ > 環境的・物理的・化学的防除 | 難易度：応用

殺鼠剤を使用した防除終了後の事後処理として最も適切なのはどれか。

- ア. 死鼠を天井裏に放置する。
- イ. 毒餌を永久に放置し位置を記録しない。
- ウ. 防除後は清掃や効果判定を行わない。
- エ. 死鼠を速やかに除去し、残った毒餌やトラップを回収し、こぼれた餌も清掃する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。悪臭や害虫発生の原因となる。
- イ：誤り。誤食等の安全リスクがある。
- ウ：誤り。事後処理と評価が必要である。
- エ：正しい。死骸・薬剤・器具を放置しない。

総合解説：事後処理まで含めて防除作業であり、衛生障害や誤食事故を残さないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0061 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：基礎

建築物内でゴキブリを防除する衛生上の理由として最も適切なのはどれか。

- ア．食品への混入や、体表・糞などを介した衛生上の汚染につながるおそれがあるため。
- イ．建築物の耐震性を必ず高めるから。
- ウ．空気中の酸素を全て消費するから。
- エ．水道水を自動的に浄化するから。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。ゴキブリは食品取扱区域で衛生上問題となる。
- イ：誤り。防除理由ではない。
- ウ：誤り。そのような影響ではない。
- エ：誤り。衛生上の利益はない。

総合解説：ゴキブリは人の健康を損なう事態を生じさせるおそれのある衛生害虫として、防除対象となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0062 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：基礎

チャバネゴキブリが特に見られやすい環境として最も適切なのはどれか。

- ア．水も餌もない屋外の乾燥地だけ。
- イ．空調設備の整ったビル内の食堂や給湯室など、温暖で餌や水を得やすい場所。
- ウ．高山の積雪面だけ。
- エ．冷凍庫内部の氷点下環境だけ。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。代表的な発生環境ではない。
- イ：正しい。東京都の資料ではビル内の食堂・給湯室等によく見られるとされる。
- ウ：誤り。建築物内害虫の生態と合わない。
- エ：誤り。代表的な生息場所ではない。

総合解説：チャバネゴキブリは室内で定着しやすいため、食品・水分・潜伏場所を一体的に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0063 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：基礎

クロゴキブリについて最も適切な説明はどれか。

- ア. 建築物内には絶対に入らない。
- イ. 食品施設では一切問題にならない。
- ウ. ビルや住宅内で見られ、屋外から建物内へ侵入することもある。
- エ. 水中だけで生活する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。室内でも見られる。
- イ：誤り。衛生害虫として防除対象となる。
- ウ：正しい。東京都資料では屋外から飛来・侵入することも示される。
- エ：誤り。屋内外の様々な場所で見られる。

総合解説：クロゴキブリでは室内の発生源対策だけでなく、屋外からの侵入防止も重要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0064 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：基礎

ゴキブリの潜伏場所として最も適切なのはどれか。

- ア. 人が常時歩く床中央だけ。
- イ. 照明のない屋外上空だけ。
- ウ. 水槽の水中だけ。
- エ. 調理台や冷蔵庫の周辺、配電盤、壁の隙間、戸棚など狭く隠れやすい場所。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。潜伏に適しにくい。
- イ：誤り。代表的潜伏場所ではない。
- ウ：誤り。水生昆虫ではない。
- エ：正しい。維持管理マニュアルで重点的な目視箇所として示される。

総合解説：狭い隙間と食品・水・熱源の近くを重点的に調査することで発生場所を見つけやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0065 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：標準

ゴキブリの生息を示す証拠として最も適切な組合せはどれか。

- ア. 虫体、糞、ローチスポット、卵鞘。
- イ. ねずみの大きな巣穴だけ。
- ウ. 配管の水圧だけ。
- エ. 天井高だけ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。マニュアルの目視調査で確認項目として示される。
- イ：誤り。ゴキブリの代表的証拠ではない。
- ウ：誤り。生息証拠ではない。
- エ：誤り。生息の直接証拠ではない。

総合解説：直接個体が見えなくても、糞・ローチスポット・卵鞘等を確認することで潜伏場所を推定できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0066 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：標準

ゴキブリが厨房に定着しやすくなる条件として最も適切なのはどれか。

- ア. 食品を密閉し残渣を除去している。
- イ. 食品残渣や厨芥類が残り、食材が露出している。
- ウ. ごみ箱を洗浄している。
- エ. 床の水分を除去している。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。むしろ発生を抑える。
- イ：正しい。餌資源が豊富だと定着を助長する。
- ウ：誤り。発生源対策として有効である。
- エ：誤り。生息条件を減らす。

総合解説：食物管理と清掃により餌資源を減らすことがIPMの基本的な環境対策である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0067 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：標準

厨房でゴキブリの発生条件を減らす管理として最も適切なのはどれか。

- ア. 流し台下に水漏れを放置する。
- イ. 床へ常時散水して湿潤状態を保つ。
- ウ. 清掃後に床や設備周辺の不要な水分を残さない。
- エ. 排水溝の汚れを長期間残す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。水資源を供給する。
- イ：誤り。発生条件を改善しない。
- ウ：正しい。餌だけでなく水分も生息条件となる。
- エ：誤り。餌・水・潜伏条件を提供する。

総合解説：漏水修理、排水周辺の清掃、床面の乾燥は、薬剤に頼らない発生源対策となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0068 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：標準

ゴキブリ対策としてダンボール、古新聞、古雑誌を整理・除去する主な理由はどれか。

- ア. 薬剤を吸収させて効果を弱めるため。
- イ. 食品残渣を隠すため。
- ウ. 調査トラップを置けなくするため。
- エ. 隙間や潜伏場所となる物品を減らし、生息・繁殖しにくい環境にするため。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。防除目的と逆である。
- イ：誤り。餌資源を残すことになる。
- ウ：誤り。調査性を悪化させる。
- エ：正しい。環境調査では整理整頓状況も確認する。

総合解説：整理整頓は潜伏場所を減らし、清掃・点検・トラップ設置を容易にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0069 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：標準

ゴキブリの目視調査で冷蔵庫、湯沸し設備、配電盤の周辺を確認する理由として最も適切なのはどれか。

- ア．隙間が多く、温度・水分・食品等の条件が重なり潜伏場所になり得るため。
- イ．ゴキブリが金属だけを食べるから。
- ウ．配電盤が必ず巣そのものになるから。
- エ．冷蔵庫内部の冷凍食品だけで繁殖するから。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。設備周辺は重点調査箇所として示される。
- イ：誤り。理由ではない。
- ウ：誤り。潜伏可能性を調べるのであり必ず生息するわけではない。
- エ：誤り。設備の周辺・隙間が重要である。

総合解説：設備の背面や下部など清掃しにくい場所は、証跡と環境条件を併せて確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0070 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：標準

昼間にゴキブリをほとんど見かけない厨房でも生息調査が必要な理由として最も適切なのはどれか。

- ア．昼間に見えなければ必ず絶滅しているから。
- イ．ゴキブリは昼間に隙間等へ潜伏することがあり、目撃が少なくても生息している可能性があるため。
- ウ．夜間は活動しないから。
- エ．トラップは昼間にしか捕獲できないから。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。直接目撃だけでは判断できない。
- イ：正しい。潜伏性を考慮して隙間・証跡・トラップ調査を行う。
- ウ：誤り。人目を避けて活動することがある。
- エ：誤り。一定期間設置して活動個体を捕獲する。

総合解説：潜伏性の高い害虫では、目視だけでなく粘着トラップ等による客観調査が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0071 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：応用

空調されたビルの飲食店厨房で、小型のゴキブリが冷蔵庫や調理機器周辺に多数定着している。最も疑うべき種はどれか。

- ア. ドブネズミ。
- イ. ハト。
- ウ. チャバネゴキブリ。
- エ. クロゴキブリだと断定する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。哺乳類であり形態が異なる。
- イ：誤り。鳥類である。
- ウ：正しい。空調されたビル内の食堂・給湯室等でよく見られる。
- エ：誤り。今回の環境はチャバネゴキブリの典型的発生条件に合う。

総合解説：種の推定には個体の形態だけでなく、発生場所と定着状況を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0072 ゴキブリ>種類・生態 | 難易度：応用

住宅併設ビルで、夏季に屋外側の開口部付近から大型のゴキブリが単発的に侵入する事例が増えた。最も疑うべき種はどれか。

- ア. チャバネゴキブリだと断定する。
- イ. ハツカネズミ。
- ウ. チカイエカ。
- エ. クロゴキブリ。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。今回の屋外侵入・大型という情報はクロゴキブリに合う。
- イ：誤り。ねずみである。
- ウ：誤り。蚊であり形態が異なる。
- エ：正しい。クロゴキブリはビル・住宅内で見られ、屋外から侵入することもある。

総合解説：クロゴキブリでは屋内の餌・水管理に加え、窓・扉・配管周囲等の侵入防止も重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0073 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：基礎

ゴキブリの目視調査で重点的に確認すべき場所として最も適切なのはどれか。

- ア．ガスレンジ、調理台、流し台、冷蔵庫周辺、配電盤、壁の隙間、戸棚など。
- イ．屋外の空だけ。
- ウ．建物名称の看板だけ。
- エ．駐車券発券機の番号だけ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。生息しそうな隙間や設備周辺を照明用具で確認する。
- イ：誤り。屋内潜伏場所を調べる必要がある。
- ウ：誤り。生息調査にならない。
- エ：誤り。生息場所の情報ではない。

総合解説：目視では虫体だけでなく糞、ローチスポット、卵鞘等も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0074 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：基礎

維持管理マニュアルのゴキブリ粘着トラップ調査で示される設置期間の目安として適切なのはどれか。

- ア．数秒だけ。
- イ．3～7日間。
- ウ．必ず1年間放置する。
- エ．設置せず推測だけで判定する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。活動個体を十分に把握できない。
- イ：正しい。一定期間設置して捕獲数を比較する。
- ウ：誤り。調査期間の目安と異なる。
- エ：誤り。客観調査が重要である。

総合解説：トラップは期間、場所、枚数を揃えて記録し、捕獲指数による評価に利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0075 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：基礎

厨房などゴキブリが発生しやすい場所での粘着トラップ配置の目安として、維持管理マニュアルに最も合うものはどれか。

- ア. 500m²に1枚だけ。
- イ. 建物全体で必ず1枚だけ。
- ウ. おおむね5m²に1枚。
- エ. 面積に関係なく屋外にのみ配置する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。重点区域の調査として粗すぎる。
- イ：誤り。分布を把握できない。
- ウ：正しい。発生しやすい厨房では比較的高密度に配置する。
- エ：誤り。活動場所を中心に設置する。

総合解説：通常発生源がない事務所では25～50m²に1枚が目安であり、区域リスクで配置密度を変える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0076 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：標準

通常はゴキブリの発生源がない事務所で、粘着トラップを配置する目安として維持管理マニュアルに最も合うものはどれか。

- ア. 1,000m²に1枚だけ。
- イ. 1m²に10枚を必ず配置する。
- ウ. 事務所ではトラップ調査を行ってはならない。
- エ. おおむね25～50m²に1枚。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。分布把握には粗すぎる。
- イ：誤り。標準的目安ではない。
- ウ：誤り。必要に応じて実施する。
- エ：正しい。厨房より低い密度で配置する目安が示される。

総合解説：区域の発生リスクに応じてトラップ密度を変え、同条件で継続比較する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0077 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：標準

ゴキブリのトラップ調査で用いる「1日1トラップ当たり」の指数の考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 捕獲数を設置日数とトラップ数を考慮して換算し、調査期間や枚数が違う場合でも比較しやすくする。
- イ. 最も大きい個体の体長だけを指数にする。
- ウ. トラップ価格を日数で割る。
- エ. 捕獲数を記録せず目撃印象だけで算出する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。捕獲数を標準化して密度評価に用いる。
- イ：誤り。捕獲密度の指標ではない。
- ウ：誤り。生息密度と無関係である。
- エ：誤り。客観的捕獲データを用いる。

総合解説：指数化により、防除前後や区域間の捕獲状況を一定の尺度で比較できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0078 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：標準

粘着トラップ上で、捕獲された雌の卵鞘から明らかに孵化した幼虫が多数付着していた。捕獲数の扱いとして適切なのはどれか。

- ア. 全て通常捕獲個体として加える。
- イ. トラップ内で孵化したと明らかに判断できる幼虫は、捕獲数に加えない。
- ウ. 雌成虫も含め全捕獲数をゼロにする。
- エ. トラップ全体を廃棄し記録を残さない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。実際の徘徊個体密度を過大評価する。
- イ：正しい。マニュアルに示される計数上の注意である。
- ウ：誤り。実際に捕獲された個体は計数する。
- エ：誤り。調査データを失う。

総合解説：捕獲指数は一定の計数ルールで算出し、比較可能性を保つことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0079 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：標準

厨房でゴキブリ捕獲数が多い。環境調査として最も優先して確認すべき組合せはどれか。

- ア．壁の装飾色とBGMだけ。
- イ．従業員の年齢だけ。
- ウ．食品残渣、排水溝・グリストラップの汚れ、段ボール等の整理状況、食材の露出、隙間やくぼみ。
- エ．営業時間だけを見て他は調べない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。発生原因と関係が乏しい。
- イ：誤り。環境要因ではない。
- ウ：正しい。餌・水・潜伏場所・侵入場所を確認する。
- エ：誤り。複数の発生条件を確認する。

総合解説：捕獲数だけでなく、発生を支える環境条件を把握して改善策へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0080 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：標準

ゴキブリの標準的な許容水準として最も適切なのはどれか。

- ア．捕獲指数が1以上である。
- イ．1個のトラップに2匹以上捕獲される。
- ウ．生きた個体がかかなり目撃される。
- エ．捕獲指数が0.5未満、1個のトラップの捕獲数が2匹未満で、生きたゴキブリが目撃されない。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。措置水準に該当する。
- イ：誤り。措置水準の条件である。
- ウ：誤り。措置水準の条件である。
- エ：正しい。これら全てを満たす状態が許容水準である。

総合解説：許容水準でも定期調査を継続し、再発を早期に把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0081 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：応用

捕獲指数0.7、各トラップの捕獲数は2匹未満で、生きたゴキブリが時に目撃される区域がある。標準的な水準として最も適切なのはどれか。

- ア．警戒水準。
- イ．必ず許容水準。
- ウ．必ず措置水準。
- エ．水準評価は一切できない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。捕獲指数0.5以上1未満、1トラップ2匹未満、時に生体目撃という条件に合う。
- イ：誤り。捕獲指数が0.5以上である。
- ウ：誤り。提示条件では措置水準条件に達していない。
- エ：誤り。標準的な判定条件が示されている。

総合解説：警戒水準では環境整備を見直し、悪化を防ぐため必要な対応を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0082 ゴキブリ>生息調査 | 難易度：応用

ゴキブリ調査で、捕獲指数が1.2となった。ほかの条件にかかわらず標準的な水準として最も適切なのはどれか。

- ア．許容水準。
- イ．措置水準。
- ウ．調査不要水準。
- エ．清掃水準。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。基準を超えている。
- イ：正しい。捕獲指数1以上は措置水準の条件の一つである。
- ウ：誤り。そのような区分はない。
- エ：誤り。IPMの目標水準区分ではない。

総合解説：措置水準では環境的対策と必要な物理的・化学的防除を行い、事後評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0083 ゴキブリ>防除方法 | 難易度：基礎

ゴキブリの環境的防除として最も適切なのはどれか。

- ア. 食品を夜間に露出したままにする。
- イ. 厨芥を床に放置する。
- ウ. 食品を密閉保管し、厨芥類を速やかに処理し、使用後の食器を洗浄して収納する。
- エ. 食器に残渣を付けたまま保管する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。餌資源を提供する。
- イ：誤り。発生を助長する。
- ウ：正しい。餌資源を減らす基本対策である。
- エ：誤り。餌となる。

総合解説：食物管理は薬剤使用量を減らし、再発を防ぐIPMの中心的な環境対策である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0084 ゴキブリ>防除方法 | 難易度：基礎

厨房でゴキブリの定着条件を減らす清掃として最も適切なのはどれか。

- ア. 床の水分を毎晩残す。
- イ. 機器裏の残渣は見えないので放置する。
- ウ. ごみ箱を洗わず残渣を蓄積する。
- エ. 機器の上・下・裏、排水溝、グリストラップ、ごみ箱を清掃し、食品残渣と不要な水分を残さない。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。水資源を与える。
- イ：誤り。発生源になる。
- ウ：誤り。餌と潜伏環境を提供する。
- エ：正しい。餌・水・潜伏条件を減らす。

総合解説：環境整備は建築物維持管理権原者の責任の下で日常的に行う重要な再発防止策である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0085 ゴキブリ>防除方法 | 難易度：標準

ゴキブリの生息場所が特定でき、掃除機のノズルが届く場合の防除として適切なのはどれか。

- ア．生息ポイントを外さないよう吸引し、残存個体がいれば吸引を繰り返す。
- イ．掃除機を使わず必ず全面薬剤散布する。
- ウ．ゴキブリがいる場所を避けて吸引する。
- エ．吸引後は確認せず必ず終了する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。維持管理マニュアルで示される物理的防除法である。
- イ：誤り。非化学的手段を選択できる。
- ウ：誤り。防除効果が得られない。
- エ：誤り。残存個体を観察する。

総合解説：生息ポイントが明確なら吸引は薬剤曝露を増やさず個体数を減らせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0086 ゴキブリ>防除方法 | 難易度：標準

ゴキブリ用毒餌剤の使用法として最も適切なのはどれか。

- ア．食品残渣を大量に残して毒餌との競争を増やす。
- イ．食品など他の餌を整理した後、少量ずつ生息・活動箇所に配置し、残量を数日ごとに確認して必要に応じ補充する。
- ウ．一度置いたら残量を確認しない。
- エ．利用者が直接触れる食品上へ置く。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。喫食性を低下させる。
- イ：正しい。毒餌の喫食性と配置状況を継続管理する。
- ウ：誤り。効果管理ができない。
- エ：誤り。安全上不適切である。

総合解説：毒餌は環境整備と組み合わせ、生息箇所へ分散配置して喫食状況を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0087 ゴキブリ>防除方法 | 難易度：標準

環境整備、吸引、毒餌でも十分な効果が得られない場合の薬剤処理として最も適切なのはどれか。

- ア．原因を調べず建物全体へ最大濃度で散布する。
- イ．承認のない薬剤を混合する。
- ウ．よりリスクの少ない剤型を選び、安全に配慮しながら隙間など必要箇所へ重点的に処理する。
- エ．利用者への周知を行わず営業中に散布する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。過剰曝露を招く。
- イ：誤り。法令・安全上不適切である。
- ウ：正しい。全面一律散布ではなく、必要箇所へ限定する。
- エ：誤り。安全配慮が不足する。

総合解説：薬剤はIPMの一手段であり、非化学的対策を行った上で必要範囲へ限定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0088 ゴキブリ>防除方法 | 難易度：標準

ゴキブリ防除で薬剤を処理する際の事前通知として、維持管理マニュアルに合うものはどれか。

- ア．実施後まで一切知らせない。
- イ．薬剤名や場所を意図的に隠す。
- ウ．掲示は作業開始と同時に撤去する。
- エ．少なくとも3日前までに薬剤名、実施場所、におい、利用者への注意等を通知し、実施3日後まで掲示する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。事前通知が必要である。
- イ：誤り。安全配慮に反する。
- ウ：誤り。実施後も掲示期間を確保する。
- エ：正しい。利用者への曝露リスク低減のための情報提供である。

総合解説：薬剤使用時は処理区域、薬剤情報、注意事項を事前に周知し、利用者の安全を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0089 ゴキブリ>防除方法 | 難易度：応用

毒餌を適切に設置しているのに捕獲指数が低下せず、薬剤効果不良が疑われる。最も適切な対応はどれか。

- ア．採集個体で毒餌の喫食性や薬剤抵抗性の可能性を調べ、必要に応じ薬剤や防除方法を変更する。
- イ．同じ薬剤だけを無制限に増量する。
- ウ．捕獲指数を記録せず成功扱いにする。
- エ．食品残渣を増やして毒餌の喫食を促す。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。効果不良の原因を区別して対策を再設計する。
- イ：誤り。抵抗性や安全性の問題を解決しない。
- ウ：誤り。効果判定を放棄している。
- エ：誤り。毒餌との競合餌を増やす。

総合解説：抵抗性、喫食性、配置、環境条件を確認し、薬剤依存を避けて手段を組み替える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0090 ゴキブリ>防除方法 | 難易度：応用

ゴキブリ防除後の適切な管理として最も適切なのはどれか。

- ア．薬剤を使った時点で必ず成功とする。
- イ．事前と対応する方法で再調査して目標水準を確認し、未達なら原因を調査して再処理する。
- ウ．防除後のトラップ調査を永久に中止する。
- エ．未達でも記録を削除して終了する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。生息密度の確認が必要である。
- イ：正しい。防除後の評価と必要な再措置がIPMに不可欠である。
- ウ：誤り。効果判定と継続監視が必要である。
- エ：誤り。原因分析と改善に記録が必要である。

総合解説：効果判定、記録、原因分析、再処理まで行い、許容水準を継続的に維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0091 その他の衛生害虫> 蚊・ハエ | 難易度：基礎

蚊の発育順序として最も適切なのはどれか。

- ア. 卵→幼虫（ボウフラ）→蛹→成虫。
- イ. 卵→蛹→幼虫→成虫。
- ウ. 卵→成虫→幼虫→蛹。
- エ. 幼虫→卵→蛹→成虫。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。蚊は卵、幼虫、蛹、成虫の順に発育し、幼虫と蛹は水中で生活する。
- イ：誤り。幼虫の後に蛹となる。
- ウ：誤り。成虫が幼虫より先になることはない。
- エ：誤り。卵から幼虫がふ化する。

総合解説：蚊の防除では、水中生活を送る幼虫期を狙って発生源の水をなくすることが基本となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0092 その他の衛生害虫> 蚊・ハエ | 難易度：基礎

蚊の吸血について最も適切なのはどれか。

- ア. 雄だけが吸血する。
- イ. 産卵に必要な栄養を得るため、一般に雌が吸血する。
- ウ. 幼虫だけが人を吸血する。
- エ. 蛹だけが吸血する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。吸血するのは一般に雌である。
- イ：正しい。東京都施設管理者向け資料では、雌が産卵のため吸血することが示されている。
- ウ：誤り。幼虫は水中で微生物や腐植質等を摂食する。
- エ：誤り。蛹は水中で食物をとらない。

総合解説：蚊の成虫対策では吸血被害を減らす措置を行う一方、発生抑制では幼虫発生源の管理が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0093 その他の衛生害虫> 蚊・ハエ | 難易度：基礎

ヒトスジシマカの特徴として最も適切なのはどれか。

ア. 主に地下排水槽で一年中発生する都市型の蚊である。

イ. 夜間だけ吸血し、下水溝の大きな水域にしか産卵しない。

ウ. 昼間に吸血し、植木鉢の受け皿、空き容器、古タイヤ、雨水ますなどの小さなたまり水を発生源としやすい。

エ. 日本国内では定着が確認されていない。

0094 その他の衛生害虫> 蚊・ハエ | 難易度：基礎

ビル管理上、チカイエカについて最も適切な説明はどれか。

ア. 屋外の乾いた砂地だけで発生する。

イ. 冬季は必ず全個体が死滅する。

ウ. 幼虫は水を全く必要としない。

エ. 地下の排水槽や湧水槽など安定した環境で発生し、屋内では冬でも活動することがある。

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。チカイエカの特徴に近い。

イ：誤り。アカイエカの特徴と混同している。

ウ：正しい。ヒトスジシマカは昼間吸血性で、小規模なたまり水を利用する。

エ：誤り。国内に広く生息する。

総合解説：ヒトスジシマカは活動範囲が比較的に狭いため、刺咬が多い場所の周辺で小さなたまり水を探すことが有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。水域を幼虫発生源とする。

イ：誤り。屋内では冬でも活動し得る。

ウ：誤り。幼虫は水中で发育する。

エ：正しい。チカイエカは地下施設に適した都市型の蚊として問題になる。

総合解説：地下排水槽・湧水槽では密閉、防虫網、清掃、必要な幼虫対策を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0095 その他の衛生害虫>蚊・ハエ | 難易度：標準

施設における蚊の防除で、平常時に最も優先すべき対策はどれか。

- ア. 幼虫が発生するたまり水をなくし、除去できない水域は清掃・換水等で管理する。
- イ. 成虫が見えるまで何もせず、見えたら建物全体へ薬剤を散布する。
- ウ. 雨水ますの詰まりを放置して水をためる。
- エ. 不要容器を屋外へ並べて雨水をためる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。飛翔する成虫より、水中にいる幼虫の発生源を管理する方が基本的で持続的な対策となる。
- イ：誤り。発生源対策を欠いている。
- ウ：誤り。蚊の発生源を増やす。
- エ：誤り。小規模なたまり水が発生源となる。

総合解説：蚊防除は幼虫対策が基本であり、不要な水たまりの除去、週1回程度の換水・清掃等を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0096 その他の衛生害虫>蚊・ハエ | 難易度：標準

ビル地下の湧水槽からチカイエカが発生している。最も適切な対策はどれか。

- ア. ふたを常時開放して成虫を館内へ逃がす。
- イ. 槽のふたの密閉状態を確認し、通気管に細かい防虫網を設け、幼虫発生状況に応じて適切な対策を行う。
- ウ. 通気管の防虫網を撤去する。
- エ. 槽内の発生状況を確認せず、利用者空間だけへ薬剤を散布する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。侵入拡大につながる。
- イ：正しい。東京都資料では、湧水槽・排水槽の密閉、防虫網、必要な薬剤等を組み合わせることを示している。
- ウ：誤り。成虫の出入りを防げなくなる。
- エ：誤り。発生源対策が不足する。

総合解説：地下水槽での蚊対策は、発生源の管理と成虫の建物内侵入防止を一体で実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0097 その他の衛生害虫>蚊・ハエ | 難易度：標準

施設周辺の汲み置き水や小型容器の蚊対策として最も適切なのはどれか。

- ア. 水は半年に1回だけ交換する。
- イ. 容器の水を継ぎ足し続ける。
- ウ. 少なくとも週1回を目安に水を交換・廃棄し、幼虫が成虫になる前に発生源を断つ。
- エ. 幼虫が多数見えても水をそのまま保存する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。蚊が発育するには十分長すぎる。
- イ：誤り。発生源が維持される。
- ウ：正しい。東京都資料では週1回の清掃や水交換が幼虫対策として示される。
- エ：誤り。発生抑制にならない。

総合解説：小さなたまり水は見落とされやすいため、定期的な巡回と週単位の管理が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0098 その他の衛生害虫>蚊・ハエ | 難易度：基礎

ビル内で問題となるチョウバエの代表的な発生源として最も適切なのはどれか。

- ア. 乾燥した書庫の紙だけ。
- イ. 清潔で乾燥した天井面だけ。
- ウ. 飲料水受水槽の清浄な密閉水だけ。
- エ. 汚水槽・雑排水槽・排水ます・グリース阻集器などにたまった有機物やスカム。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。代表的発生源ではない。
- イ：誤り。発生には湿った有機物が関与しやすい。
- ウ：誤り。典型的発生源ではない。
- エ：正しい。幼虫は汚泥やスカム等の有機物を利用して発育する。

総合解説：チョウバエ対策は成虫だけを処理するのではなく、排水設備内の発生源を発見・清掃することが最重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0099 その他の衛生害虫> 蚊・ハエ | 難易度：標準

雑排水槽からチョウバエが多数発生している。最も適切な防除方針はどれか。

- ア. 槽内のスカムや汚泥など幼虫の発生源を清掃・除去し、必要に応じ成虫対策を追加する。
- イ. 成虫だけを毎日捕殺し、槽内の汚泥は放置する。
- ウ. 排水槽の清掃頻度を下げる。
- エ. 有機物を追加して幼虫を一箇所に集める。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。発生源の除去が防除の中心となる。
- イ：誤り。発生が継続しやすい。
- ウ：誤り。発生条件を悪化させる。
- エ：誤り。発生源を増やす。

総合解説：チョウバエは排水設備の衛生状態を反映することがあるため、汚泥・スカム・排水管理を改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0100 その他の衛生害虫> 蚊・ハエ | 難易度：標準

食品取扱施設でハエ類を防除する主な衛生上の理由として最も適切なのはどれか。

- ア. 建物の構造強度を低下させる木材害虫だから。
- イ. 不衛生な物質と食品・調理区域の間を移動し、食品汚染や異物混入の原因となるおそれがあるため。
- ウ. 給水管を腐食させるから。
- エ. 空調機の冷媒を分解するから。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。ハエ類の主な問題ではない。
- イ：正しい。ハエ類は衛生害虫として食品取扱環境で問題になる。
- ウ：誤り。主な衛生被害ではない。
- エ：誤り。ハエ防除の理由ではない。

総合解説：ハエ対策では発生源の廃棄物・排水・腐敗有機物を管理し、侵入防止と必要な成虫対策を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0101 その他の衛生害虫>蚊・ハエ | 難易度：応用

地下の雑排水槽周辺で小型のハエが急増し、槽内には厚いスカムと汚泥が確認された。最も適切な初動はどれか。

- ア. 利用者空間だけを毎日燻煙し、排水槽は点検しない。
- イ. 排水ポンプを停止して滞留時間を長くする。
- ウ. 発生している種類と発生源を確認し、槽内の清掃・汚泥除去と排水設備の維持管理を優先する。
- エ. スカムを増やして幼虫をそこへ集める。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。発生源が残る。
- イ：誤り。腐敗と害虫発生を助長し得る。
- ウ：正しい。発生源が排水槽と考えられる場合、環境改善を先に行う。
- エ：誤り。発生源を増大させる。

総合解説：衛生害虫の発生は設備管理不良のサインとなることがあり、発生源の清掃・点検を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0102 その他の衛生害虫>蚊・ハエ | 難易度：応用

冬季にも地下機械室付近で吸血被害が続き、近くの湧水槽から蚊の幼虫が見つかった。最も疑うべき種と対策の組合せはどれか。

- ア. ヒトスジシマカを疑い、屋外の草刈りだけ行う。
- イ. アカイエカを疑い、発生源を確認せず室内だけ薬剤散布する。
- ウ. 蚊ではないと断定し、何もしない。
- エ. チカイエカを疑い、湧水槽の密閉・防虫網・幼虫発生源管理を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。地下水槽・冬季活動という情報と合いにくい。
- イ：誤り。発生源対策が必要である。
- ウ：誤り。幼虫が確認されており対策が必要である。
- エ：正しい。地下水槽で通年発生し得る特徴がチカイエカと一致する。

総合解説：発生時期、場所、幼虫発生源を手掛かりに種を推定し、その生態に合う発生源対策を選択する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0103 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：基礎

室内のチリダニについて最も適切な説明はどれか。

- ア. 畳、布団、カーペットなどに生息し、死骸や糞がアレルギーの原因となることがある。
- イ. 人の血だけを吸って生活する。
- ウ. 屋外の森林にしか生息しない。
- エ. 建物木材だけを食害する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。チリダニは室内で多くみられ、アレルギーとして重要である。
- イ：誤り。チリダニは吸血性ダニではない。
- ウ：誤り。室内環境に多くみられる。
- エ：誤り。木材害虫ではない。

総合解説：チリダニ対策では、室内湿度、寝具・カーペットの清掃、ほこりや餌となる有機物の低減が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0104 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：基礎

ツメダニについて最も適切な説明はどれか。

- ア. 人に寄生して常時吸血することだけで生活する。
- イ. チリダニやコナダニなどを捕食し、増加すると人を刺してかゆみを生じさせることがある。
- ウ. ダニではなくハエの一種である。
- エ. 食品中では絶対に発生しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。通常は他のダニ等を捕食する。
- イ：正しい。ツメダニは他の小型節足動物を捕食し、人を刺すことがある。
- ウ：誤り。ダニ類である。
- エ：誤り。餌となるコナダニ等の増加に伴い問題化することがある。

総合解説：ツメダニ対策では、餌となるチリダニ・コナダニ等の増加原因を減らすことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0105 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：基礎

イエダニの生態として最も適切なのはどれか。

ア．カーベットのほこりだけを食べ、人を刺さない。

イ．植物の葉だけに寄生する。

ウ．主にねずみに寄生し、ねずみが死んだり巣を放棄したりすると室内へ移動して人を刺すことがある。

エ．水中でしか生活しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：誤り。イエダニは吸血性である。

イ：誤り。主にねずみと関係する。

ウ：正しい。宿主となるねずみの状態変化後に人への刺咬が起こることがある。

エ：誤り。室内へ侵入し人を刺すことがある。

総合解説：イエダニ被害では、ダニだけでなく宿主であるねずみの生息・巣の有無も調査する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0106 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：標準

室内のダニが増えやすい条件として東京都の居住環境資料に最も合うものはどれか。

ア．低温・極端な乾燥・無餌環境。

イ．常に凍結した床面。

ウ．清掃が十分で餌が少なく、湿度も低い環境。

エ．温度25～30℃程度、相対湿度60%以上で、フケ・アカ・カビ・食べこぼし等の餌が多い環境。

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。増殖しにくい条件である。

イ：誤り。代表的な増殖条件ではない。

ウ：誤り。ダニ増加を抑える方向である。

エ：正しい。高温多湿と餌の存在が室内ダニの増加に関係する。

総合解説：ダニ対策は薬剤だけでなく、除湿、換気、清掃、寝具管理など環境条件の改善が基本となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0107 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：標準

チリダニの増殖を抑える室内管理として最も適切なのはどれか。

- ア．換気・除湿を行い、寝具やカーペットのほこりを除去し、室内を清潔に保つ。
- イ．室内を常時高湿度に保つ。
- ウ．布団やカーペットの清掃を長期間行わない。
- エ．食べこぼしを床に残す。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。湿度と餌資源を減らすことが基本である。
- イ：誤り。ダニ増殖を助長する。
- ウ：誤り。餌となる有機物が蓄積する。
- エ：誤り。餌資源を増やす。

総合解説：室内ダニ対策は、清掃と湿度管理を継続してダニが生息しにくい環境を作ることが中心である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0108 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：標準

開封後の粉製品でダニの増殖を防ぐ方法として最も適切なのはどれか。

- ア．開封した袋を開いたまま高温多湿の戸棚へ長期保管する。
- イ．密閉容器に入れ、製品表示等に従って適切に保管し、東京都資料で例示される粉製品では冷蔵保管を活用する。
- ウ．湿気を加えるため毎日水を噴霧する。
- エ．ダニが見えなければ何年でも同じ粉を使用する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。増殖条件を作りやすい。
- イ：正しい。室温で長期保管した粉製品にダニが大量繁殖することがある。
- ウ：誤り。高湿度はダニ増殖に有利である。
- エ：誤り。肉眼で見えにくくても増殖している場合がある。

総合解説：粉製品の適切な密閉・保存は、コナヒョウヒダニ等の増殖とアレルギー事故の予防につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0109 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：標準

ねずみ駆除直後から天井付近の室内でダニ刺咬被害が急増した。最も疑うべき対応漏れはどれか。

- ア. チリダニが突然吸血性へ変化したと考える。
- イ. ダニとは無関係としてねずみの巣を放置する。
- ウ. ねずみの巣や死鼠に由来するイエダニ等の吸血性ダニへの調査・対策が不足している。
- エ. 湿度をさらに上げてダニを増やす。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。チリダニは吸血性ではない。
- イ：誤り。宿主・巣の処理が必要である。
- ウ：正しい。宿主が死んだ後に寄生ダニが人へ移動することがある。
- エ：誤り。被害を悪化させる。

総合解説：ねずみ防除では死鼠・巣の処理とともに、寄生性ダニの二次被害にも注意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0110 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：標準

窓付近の野鳥の巣から小型ダニが室内へ侵入し、人に刺咬被害が出ている。最も適切な考え方はどれか。

- ア. チリダニだけを疑い、野鳥の巣は調査しない。
- イ. 窓を開け放してさらに侵入させる。
- ウ. 人への刺咬があってもダニは全て無害と判断する。
- エ. 野鳥に寄生するスズメサシダニ等を疑い、巣の状況と侵入経路を確認し、適切な時期・方法で発生源対策を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。発生状況と合わない。
- イ：誤り。侵入防止に反する。
- ウ：誤り。吸血性ダニが存在する。
- エ：正しい。野鳥の巣から吸血性ダニが室内へ侵入することがある。

総合解説：吸血性ダニ対策ではダニそのもののだけでなく、ねずみ・野鳥など宿主と巣の管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0111 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：応用

カーペットの多い室内で、直接刺咬よりもアレルギー性鼻炎・ぜん息の悪化が問題となっている。最も優先して疑うべきダニ群はどれか。

- ア. チリダニ類。
- イ. イエダニだけ。
- ウ. マダニだけ。
- エ. スズメサシダニだけ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。チリダニの死骸や糞はアレルギーとなる。
- イ：誤り。主な問題は吸血・刺咬であり、今回の症状像とは異なる。
- ウ：誤り。主に屋外で吸血する大型ダニである。
- エ：誤り。主に野鳥由来の刺咬被害で問題となる。

総合解説：ダニ対策では、刺咬性、吸血性、アレルギー性など健康影響のタイプから原因種を絞り込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0112 その他の衛生害虫>ダニ | 難易度：応用

高湿度の客室でチリダニが多く、ツメダニによる刺咬も疑われている。最も適切な対策はどれか。

- ア. 高湿度を維持してダニの餌を増やす。
- イ. 除湿・換気・寝具・カーペットの清掃、ほこりや食べこぼしの除去を行い、餌となるダニ類も含めて生息条件を減らす。
- ウ. 清掃を中止して殺虫剤だけを無制限に使用する。
- エ. 寝具のほこりを意図的に残す。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。増殖を助長する。
- イ：正しい。ツメダニだけを処理するより、餌となるダニの増殖条件を改善する方が根本的である。
- ウ：誤り。環境改善が基本である。
- エ：誤り。チリダニの餌資源を増やす。

総合解説：ダニのIPMでは湿度・清掃・宿主要因など発生条件を改善し、必要に応じて補助的な防除を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0113 その他の衛生害虫> ノミ・トコジラミ等 | 難易度：基礎

室内でノミが発生した場合の基本的な対策として最も適切なのはどれか。

- ア. 床の清掃をやめ、卵や幼虫を残す。
- イ. ペットのノミは無関係として放置する。
- ウ. 畳・カーペット・部屋の隅などを丁寧に掃除し、ペット等の宿主側のノミ対策も同時に行う。
- エ. カーペットを一切動かさず表面だけ見る。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。発生源を維持することになる。
- イ：誤り。宿主対策が重要である。
- ウ：正しい。室内環境と宿主の両方を管理する必要がある。
- エ：誤り。卵や幼虫はごみの中や隅に存在し得る。

総合解説：ノミ対策では、成虫だけでなく室内に落ちた卵・幼虫と、宿主動物の対策を一体で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0114 その他の衛生害虫> ノミ・トコジラミ等 | 難易度：基礎

トコジラミの生態として最も適切なのはどれか。

- ア. 昼間だけ飛翔して屋外で吸血する。
- イ. 水中でのみ発育する。
- ウ. 植物の葉だけを食べる。
- エ. 昼間はベッドや壁・柱の狭い隙間等に潜み、夜間に活動して人を吸血することが多い。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。飛翔せず、夜間の吸血が多い。
- イ：誤り。水生昆虫ではない。
- ウ：誤り。吸血性昆虫である。
- エ：正しい。扁平な体を利用して狭い隙間へ潜伏する。

総合解説：宿泊施設ではベッド周辺、家具の隙間、壁際などを重点的に調査する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0115 その他の衛生害虫> ノミ・トコジラミ等 | 難易度：標準

宿泊施設でトコジラミの生息を疑う重要な証拠はどれか。

- ア. ベッドや壁際などにみられる黒い血糞のシミ、虫体、脱皮殻など。
- イ. 給水管の白い水垢だけ。
- ウ. 排水槽のスカムだけ。
- エ. 天井の結露だけ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。東京都資料では生息場所に黒い血糞がみられることが示される。
- イ：誤り。トコジラミの証拠ではない。
- ウ：誤り。チョウバエ等の発生源とはなり得るがトコジラミ証拠ではない。
- エ：誤り。直接的な生息証拠ではない。

総合解説：トコジラミは隠れていることが多いため、虫体だけでなく血糞等の証拠を探すことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0116 その他の衛生害虫> ノミ・トコジラミ等 | 難易度：標準

宿泊施設でトコジラミの新規侵入を考える際、特に注意すべき経路はどれか。

- ア. 水道水に溶けて配管内を移動する。
- イ. 旅行者の荷物、衣類、家具等に潜んで持ち込まれること。
- ウ. 空調冷媒に混ざって移動する。
- エ. 人の体内で繁殖してから室内へ出る。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。主な侵入経路ではない。
- イ：正しい。荷物等に潜伏して施設間を移動することがある。
- ウ：誤り。生態的に不適切である。
- エ：誤り。人体内寄生虫ではない。

総合解説：宿泊施設では客室だけでなく、荷物置場、家具、リネン取扱い等も含めて拡散防止策を考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0117 その他の衛生害虫>ノミ・トコジラミ等 | 難易度：標準

客室の複数箇所にてトコジラミと血糞が確認され、隣室でも被害が出ている。最も適切な対応はどれか。

- ア. 発生室の家具を無処置で廊下へ移動する。
- イ. 被害者がいなくなるまで何もしない。
- ウ. 拡散範囲を調査し、専門的な防除を早期に実施するとともに、荷物・家具等による他室への持出しを防ぐ。
- エ. 目に見える1匹だけ捕獲して終了する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。拡散の原因となる。
- イ：誤り。繁殖・拡散が進む。
- ウ：正しい。広がると自己処理が難しくなるため、早期の専門的対応が重要である。
- エ：誤り。隙間に多数潜伏している可能性がある。

総合解説：トコジラミは早期発見・範囲調査・拡散防止・専門的防除を組み合わせる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0118 その他の衛生害虫>ノミ・トコジラミ等 | 難易度：応用

トコジラミ防除で同一のピレスロイド系殺虫剤を使用しても十分な効果が得られない。最も適切な考え方はどれか。

- ア. 同じ薬剤を表示用量を無視して無制限に増量する。
- イ. 抵抗性は存在しないと決めつける。
- ウ. 発生範囲の調査を中止する。
- エ. 薬剤抵抗性の可能性を考え、承認された別系統の薬剤や物理的防除を含めて防除計画を見直す。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。安全性を損ない適正使用に反する。
- イ：誤り。抵抗性が防除失敗の原因となり得る。
- ウ：誤り。拡散状況の把握が必要である。
- エ：正しい。国内でもピレスロイド抵抗性が問題となっており、薬剤だけに依存しない再設計が必要である。

総合解説：トコジラミは抵抗性や潜伏性が防除を難しくするため、薬剤系統、処理方法、物理的対策、効果判定を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0119 その他の衛生害虫>ノミ・トコジラミ等 | 難易度：応用

トコジラミがベッドフレームや壁の細い隙間に多数潜伏している。くん煙剤や全放出型エアゾールだけに依存することが不十分となり得る理由として最も適切なのはどれか。

- ア．薬剤が潜伏している狭い隙間まで十分到達しないことがあり、残存個体が再増殖する可能性があるため。
- イ．トコジラミは薬剤に触れると必ず繁殖が促進されるから。
- ウ．トコジラミは水中にしかいないから。
- エ．全放出型処理は必ず法令で禁止されているから。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。厚生労働省資料でも隙間への到達性の限界が指摘されている。
- イ：誤り。そのような一般原則はない。
- ウ：誤り。寝具・家具・壁の隙間に潜伏する。
- エ：誤り。問題は一律の法的禁止ではなく防除効果の限界である。

総合解説：隙間潜伏性を考え、対象箇所への直接処理、物理的手段、範囲調査、再点検を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0120 その他の衛生害虫>ノミ・トコジラミ等 | 難易度：応用

長期間空き家だった建物を再利用した直後から、床付近で足首を中心とした刺咬被害が出た。以前は猫が出入りし、カーペットも残っている。最も適切な初動はどれか。

- ア．トコジラミだけと断定し、ベッドがないので何もしない。
- イ．ノミを疑い、カーペットや床隅を清掃・調査するとともに、動物の出入りや潜在的な宿主の有無を確認する。
- ウ．床の清掃を中止する。
- エ．野良猫の侵入を促進する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。発生状況からノミも重要な候補である。
- イ：正しい。ノミは宿主動物と室内環境の双方が発生に関与する。
- ウ：誤り。卵・幼虫・成虫の除去機会を失う。
- エ：誤り。宿主供給を増やす。

総合解説：吸血昆虫被害では、刺咬部位だけでなく宿主動物、発生場所、床材、証跡から原因を絞り込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0121 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：基礎

人の保健のためにハエ、蚊、ノミ等の衛生害虫を防除する製剤の位置づけとして最も適切なのはどれか。

- ア. 用途に関係なく全て農業として扱う。
- イ. 食品添加物として扱う。
- ウ. 殺虫剤として、承認された医薬品または医薬部外品が用いられる。
- エ. 承認制度の対象外である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。建築物内の衛生害虫防除では承認された医薬品・医薬部外品を用いる。
- イ：誤り。防除剤の法的位置づけとは異なる。
- ウ：正しい。衛生害虫の防除を目的とする殺虫剤は医薬品・医薬部外品として承認されるものがある。
- エ：誤り。建築物衛生法施行規則は承認済み製品の使用を求めている。

総合解説：特定建築物で殺虫剤を用いる場合は、対象害虫への適用があり、承認を受けた医薬品または医薬部外品を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0122 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：基礎

人の保健のためにねずみを防除する製剤として最も適切なのはどれか。

- ア. 殺菌消毒剤。
- イ. 除草剤。
- ウ. 清缶剤。
- エ. 殺鼠剤。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。細菌等を対象とする製剤である。
- イ：誤り。植物を対象とする。
- ウ：誤り。ボイラ等の水処理用途であり、ねずみ防除ではない。
- エ：正しい。殺鼠剤はねずみの駆除・防止を目的とする製剤である。

総合解説：殺鼠剤も建築物内で使用する場合は、承認された製品を用法・用量に従って安全に使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0123 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：基礎

昆虫成長制御剤（IGR）の特徴として最も適切なものはどれか。

- ア. 幼虫の脱皮や変態を阻害するなど、昆虫の発育を正常に進ませないことで防除する。
- イ. 全ての成虫を接触直後に必ず即死させることだけを目的とする。
- ウ. ねずみの血液凝固を促進する。
- エ. 建材表面を溶解して害虫を除去する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。IGRは直接の即効的殺虫とは異なる作用で幼虫から成虫への発育を妨げる。
- イ：誤り。発育阻害が主な特徴である。
- ウ：誤り。殺鼠剤の作用とは異なる。
- エ：誤り。薬剤作用の説明として不適切である。

総合解説：蚊幼虫対策などでは、除去できない水域にIGRを用いることがあり、使用量は対象水量等に応じて決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0124 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：基礎

ねずみ防除で用いられる殺鼠剤の系統の説明として最も適切なものはどれか。

- ア. 殺鼠剤は全て昆虫成長制御剤である。
- イ. ワルファリンやクマテトラリルなどの抗凝血性殺鼠剤と、急性殺鼠剤などがある。
- ウ. 殺鼠剤は全て消毒薬である。
- エ. 殺鼠剤は必ず液体噴霧剤だけである。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。対象も作用も異なる。
- イ：正しい。厚生労働省の維持管理方法資料で代表例が示されている。
- ウ：誤り。ねずみ防除用の製剤である。
- エ：誤り。毒餌として用いる製剤がある。

総合解説：殺鼠剤は種、喫食性、抵抗性、安全性を考慮して選択し、通常は毒餌箱などを用いて配置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0125 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：標準

ピレスロイド系殺虫成分について最も適切な説明はどれか。

- ア. 昆虫の成長だけを阻害し、神経系には作用しない。
- イ. ねずみだけに作用する殺鼠剤である。
- ウ. 昆虫の神経系に作用して殺虫効果を示し、家庭用・衛生害虫用殺虫剤に広く用いられている。
- エ. 全ての製品で魚類への影響を考慮する必要がある。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。IGRとの混同である。
- イ：誤り。殺虫成分の系統である。
- ウ：正しい。神経系への作用によって殺虫する代表的な系統である。
- エ：誤り。ピレスロイド系は魚毒性に注意が必要な場合がある。

総合解説：薬剤系統ごとに作用や非標的生物への影響が異なるため、対象区域と製品表示を確認して選定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0126 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：標準

有機リン系殺虫成分の作用として最も適切なのはどれか。

- ア. 昆虫の羽だけを物理的に接着する。
- イ. 幼若ホルモン様作用だけで蛹化を阻害する。
- ウ. ねずみの巣穴を塞ぐ物理的防除剤である。
- エ. アセチルコリンエステラーゼを阻害し、神経伝達を乱して殺虫作用を示す。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。神経系に作用する化学的殺虫剤である。
- イ：誤り。IGRの一部の作用である。
- ウ：誤り。殺虫剤である。
- エ：正しい。有機リン系の代表的な作用機序である。

総合解説：有機リン系は効果が高い一方、用法・用量や曝露防止を厳格に守る必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0127 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：標準

カーバメイト系殺虫成分について最も適切なのはどれか。

- ア．アセチルコリンエステラーゼを阻害するが、有機リン系とは結合特性が異なり、抵抗性害虫対策で選択肢となることがある。
- イ．昆虫の水分を吸収する乾燥剤だけである。
- ウ．全ての害虫に抵抗性が絶対に生じない。
- エ．殺鼠剤としてのみ使用される。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。カーバメイト系もAChE阻害により作用する。
- イ：誤り。神経系へ作用する成分がある。
- ウ：誤り。薬剤抵抗性は系統を問わず考慮が必要である。
- エ：誤り。衛生害虫用殺虫成分として用いられる。

総合解説：薬剤抵抗性が疑われる場合は、同一系統の反復使用だけでなく作用機序の異なる手段を検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0128 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：標準

害虫防除で剤型を選ぶ考え方として最も適切なのはどれか。

- ア．全ての害虫に同じ剤型を同じ方法で用いる。
- イ．対象害虫の生態、潜伏場所、利用者の状況、処理範囲を考慮して、ベイト、エアゾール、乳剤、IGR等から適切なものを選ぶ。
- ウ．処理区域の利用者を考慮しない。
- エ．製品の適用害虫を確認しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。生態や発生場所が異なる。
- イ：正しい。剤型は対象と環境に応じて選択する。
- ウ：誤り。曝露リスク評価が必要である。
- エ：誤り。対象への承認・適用を確認する必要がある。

総合解説：薬剤選択は成分だけでなく、剤型・処理法・対象害虫・施設条件を一体で判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0129 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：標準

ねずみ用毒餌を毒餌箱（ベイトステーション）に入れて配置する主な利点はどれか。

- ア. 毒餌を利用者が自由に持ち帰れるようにする。
- イ. 毒餌の位置を毎回不明にする。
- ウ. 毒餌を管理された場所に保持し、誤食や飛散を防ぎながらねずみに摂食させやすくする。
- エ. 他の食品と同じ容器で保管する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。誤食事故の危険がある。
- イ：誤り。点検・回収ができなくなる。
- ウ：正しい。安全管理と喫食管理の両面で有効である。
- エ：誤り。誤使用・誤食の危険がある。

総合解説：毒餌は配置位置を記録し、初期は頻繁に点検して喫食状況を確認し、作業後は残餌を回収する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0130 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：標準

同じ殺虫剤を繰り返し使用して効果が低下している場合の対応として最も適切なのはどれか。

- ア. 用法・用量を無視して同じ薬剤を無制限に増量する。
- イ. 効果判定を中止して成功扱いにする。
- ウ. 発生源対策をやめる。
- エ. 調査で効果不良の原因を確認し、作用機序の異なる薬剤や非化学的手段を組み合わせる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。安全性を損なう。
- イ：誤り。防除効果を確認できない。
- ウ：誤り。IPMの基本に反する。
- エ：正しい。抵抗性や処理不良等を評価し、防除手段を再構成する。

総合解説：抵抗性対策では薬剤ローテーションだけでなく、環境整備、物理的防除、適切な処理位置を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0131 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：応用

宿泊施設でトコジラミにピレスロイド系薬剤を適正使用したが、複数回の処理後も生存個体が多い。次の対応として最も適切なのはどれか。

- ア. 抵抗性や潜伏場所への到達不足を疑い、承認された別系統の薬剤や物理的処理を含めて計画を見直す。
- イ. 表示用量の何倍でも同じ薬剤を散布する。
- ウ. 隣室への拡散調査を行わない。
- エ. 効果判定をせず、処理したという記録だけで終了する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。トコジラミではピレスロイド抵抗性と隙間潜伏が問題となる。
- イ：誤り。適正使用に反する。
- ウ：誤り。発生範囲を確認する必要がある。
- エ：誤り。再調査が必要である。

総合解説：薬剤抵抗性と処理到達性を区別して評価し、IPMとして薬剤・物理手段・環境対策を再構成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0132 薬剤・安全管理>殺虫剤・殺鼠剤 | 難易度：応用

魚が飼育されている水系の近くで蚊成虫用殺虫剤を選ぶ。最も適切な考え方はどれか。

- ア. 水系に直接流入させるほど効果が高いため積極的に投入する。
- イ. ピレスロイド系など魚毒性に注意が必要な薬剤では、水系への流入を避け、製品表示と環境条件に適した方法を選ぶ。
- ウ. 魚への影響はどの薬剤でも考慮不要である。
- エ. 対象害虫と無関係な農薬を大量使用する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。非標的生物への影響が懸念される。
- イ：正しい。東京都資料はピレスロイド系の魚毒性に注意するよう示している。
- ウ：誤り。薬剤ごとの環境影響を評価する。
- エ：誤り。承認・適用と安全性を確認する必要がある。

総合解説：薬剤使用時は対象害虫だけでなく、魚類、利用者、ペット等の非標的生物への影響も評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0133 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：基礎

有機リン系殺虫成分の代表的な作用機序として最も適切なのはどれか。

- ア. 昆虫の幼若ホルモンだけを模倣する。
- イ. 餌を物理的に固める。
- ウ. アセチルコリンエステラーゼを阻害し、神経伝達を過剰に持続させる。
- エ. ねずみの侵入口を塞ぐ。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。IGRの一部の作用である。
- イ：誤り。神経系への化学的作用である。
- ウ：正しい。有機リン系はAChE阻害により神経機能を障害する。
- エ：誤り。物理的防鼠工事の説明である。

総合解説：薬剤の作用機序を理解すると、抵抗性対策や系統選択の判断に役立つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0134 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：基礎

蚊の幼虫対策にIGRを使用する場合の考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 成虫の飛翔音を消すために用いる。
- イ. ねずみの毒餌として用いる。
- ウ. 水を飲料水へ変換するために用いる。
- エ. 除去できないたまり水等で幼虫の発育を阻害し、成虫への移行を減らす目的で用いる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。作用目的が異なる。
- イ：誤り。対象が異なる。
- ウ：誤り。水処理剤ではない。
- エ：正しい。IGRは幼虫期への発育阻害作用を利用する。

総合解説：IGRは幼虫発生源に対して、製品表示と水量を確認し適正量を使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0135 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：標準

有機リン系とカーバメイト系殺虫剤の作用について最も適切なのはどれか。

ア. どちらもアセチルコリンエステラーゼを作用点とするが、酵素との結合特性が異なる。

イ. 両者とも昆虫成長制御剤である。

ウ. 両者とも物理的捕獲器具である。

エ. 両者ともねずみにだけ作用する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。共通の作用点を持つが、有機リン系は一般に不可逆的、カーバメイト系は可逆的阻害として説明される。

イ：誤り。主作用はAChE阻害である。

ウ：誤り。化学的殺虫剤である。

エ：誤り。衛生害虫用殺虫剤として使われる。

総合解説：同じ作用点を持つ系統間では交差抵抗性等も考慮し、効果不良時は総合的に防除法を見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0136 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：標準

ピレスロイド系殺虫成分の作用として最も適切なのはどれか。

ア. 昆虫の餌だけを腐敗させる。

イ. 昆虫の神経細胞に作用し、正常な神経伝達を阻害して殺虫効果を示す。

ウ. 排水槽の汚泥を分解する。

エ. ねずみの血液凝固だけを阻害する。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。神経系作用とは異なる。

イ：正しい。ピレスロイド系は神経系へ直接作用する。

ウ：誤り。清掃剤ではない。

エ：誤り。殺鼠剤の作用と混同している。

総合解説：ピレスロイド系は速効性を期待できる製剤がある一方、対象害虫の抵抗性や非標的生物への影響にも注意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0137 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：標準

ねずみ用毒餌の配置方法として最も適切なのはどれか。

- ア. 人が頻繁に触る机上へ裸で置く。
- イ. 活動場所を調査せず建物外へ1個だけ置く。
- ウ. ねずみの通路や活動場所を調査して複数箇所へベイトステーション等で配置し、喫食状況を記録・点検する。
- エ. 配置位置を記録せず残餌も回収しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。誤食事故の危険がある。
- イ：誤り。喫食機会が低く効果判定も難しい。
- ウ：正しい。生息調査に基づく配置と継続点検が重要である。
- エ：誤り。安全管理に反する。

総合解説：毒餌は安全な容器に収め、配置位置と喫食量を管理し、効果判定後に不要な残餌を回収する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0138 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：標準

雨水ますへ蚊幼虫用薬剤を投入する際の考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 水量を確認せず毎回同量を投入する。
- イ. 多いほどよいとして表示量を無視する。
- ウ. 薬剤名や濃度を確認しない。
- エ. 泥だめ等の水量・容量を確認し、製品表示の用量に従って必要量を算出する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。過量・不足の原因になる。
- イ：誤り。安全性・環境影響の面で不適切である。
- ウ：誤り。製品表示を確認する必要がある。
- エ：正しい。東京都資料でも容量に見合った投入量を算出するよう示している。

総合解説：水域処理では容量を把握し、用法・用量を厳守して過剰使用を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0139 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：標準

潜伏性の高い害虫に対する薬剤処理として最も適切な考え方はどれか。

- ア. 生息調査で潜伏場所を特定し、承認された製剤を必要な隙間・範囲へ重点的に処理する。
- イ. 生息場所を調べず全館へ一律散布する。
- ウ. 利用者が触れる食品へ直接散布する。
- エ. 製品の対象害虫を確認しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。処理場所を限定することで効果と安全性を両立しやすい。
- イ：誤り。不要な曝露を増やす。
- ウ：誤り。安全上不適切である。
- エ：誤り。適用を確認する必要がある。

総合解説：調査結果に基づく局所処理は、IPMにおける薬剤使用量の最適化につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0140 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：標準

狭い隙間に潜伏するトコジラミに対し、くん煙剤や全放出型エアゾールだけで処理する場合の問題として最も適切なものはどれか。

- ア. 必ず建物の構造強度が低下する。
- イ. 薬剤が潜伏隙間まで十分到達しないことがあり、残存個体による再発につながる。
- ウ. トコジラミは薬剤を栄養源にする。
- エ. 法令上すべてのくん煙剤が一律禁止されている。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。主要な問題ではない。
- イ：正しい。隙間への到達性が不十分な場合がある。
- ウ：誤り。そのような一般的生態ではない。
- エ：誤り。問題は防除効果と適正使用である。

総合解説：潜伏性害虫では、隙間への直接処理、物理的手段、再調査を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0141 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：応用

殺虫剤抵抗性の発達を抑えながら防除効果を維持する考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 効果が低下しても同じ成分だけを永続的に使用する。
- イ. 用法・用量を超えて濃度だけを上げ続ける。
- ウ. 同一作用機序の薬剤だけを漫然と反復せず、調査結果に応じて異なる作用機序や非化学的手段を組み合わせる。
- エ. 生息密度を測定せず薬剤だけ変更する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。抵抗性選抜を助長し得る。
- イ：誤り。適正使用に反する。
- ウ：正しい。作用点の異なる薬剤や物理・環境的対策を組み合わせることが重要である。
- エ：誤り。効果不良原因を確認する必要がある。

総合解説：抵抗性管理は薬剤ローテーションだけでなく、IPM全体の中で薬剤依存を下げることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0142 薬剤・安全管理> 薬剤の作用・使用方法 | 難易度：応用

トコジラミ駆除で、隙間に多数の個体が残ри、同一薬剤への感受性低下も疑われる。最も適切な再処理計画はどれか。

- ア. 同一薬剤を無制限に濃くして全面散布する。
- イ. 隙間を調べず表面だけ処理する。
- ウ. 効果判定を行わない。
- エ. 発生範囲を再調査し、承認された別系統薬剤の局所処理と物理的処理を組み合わせ、処理後に再調査する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。安全性と適正使用に反する。
- イ：誤り。残存個体を取り逃がす。
- ウ：誤り。再処理の成否を確認できない。
- エ：正しい。潜伏性と抵抗性の両方を考慮した総合対策である。

総合解説：防除失敗時は薬剤選択、処理到達性、発生範囲、環境条件を再評価し、複数手段へ組み替える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0143 薬剤・安全管理>安全管理・法令・効果判定 | 難易度：基礎

特定建築物で殺そ剤または殺虫剤を使用する場合の法的原則として最も適切なのはどれか。

- ア. 医薬品医療機器等法に基づく承認を受けた医薬品または医薬部外品を用いる。
- イ. 無承認の農薬を任意に希釈して使用する。
- ウ. 用途不明の薬剤を成分確認なしで使用する。
- エ. 作業者が自作した薬剤なら承認不要である。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。建築物衛生法施行規則に明記されている。
- イ：誤り。安全管理通知でも不適切とされる。
- ウ：誤り。承認・適用を確認する必要がある。
- エ：誤り。法令要件を満たさない。

総合解説：薬剤選定時には承認、適用害虫、用法・用量、使用上の注意を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0144 薬剤・安全管理>安全管理・法令・効果判定 | 難易度：基礎

殺虫剤・殺鼠剤を安全に使用するための基本として最も適切なのはどれか。

- ア. 効きにくいと感じたら表示量を無視して自由に増量する。
- イ. 容器・被包等に記載された用法・用量と使用上の注意を遵守する。
- ウ. ラベルを剥がして薬剤名を分からなくする。
- エ. 異なる製品を成分確認なしで混合する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。健康被害の危険がある。
- イ：正しい。厚生労働省の安全管理通知で明示されている。
- ウ：誤り。誤使用・事故対応を困難にする。
- エ：誤り。予期しない危険が生じ得る。

総合解説：適正使用は薬剤事故防止と防除効果の再現性の両方に重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0145 薬剤・安全管理>安全管理・法令・効果判定 | 難易度：標準

屋内で殺虫剤を使用した後の安全管理として最も適切なものはどれか。

- ア. 作業後すぐに換気せず利用者を入室させる。
- イ. 薬剤残留を意図的に食品表面へ残す。
- ウ. 必要に応じて強制換気や清掃を行い、残留薬剤を除去して利用者の安全を確保する。
- エ. 使用した薬剤情報を廃棄する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。曝露リスクを高める可能性がある。
- イ：誤り。衛生上不適切である。
- ウ：正しい。厚生労働省通知で示されている。
- エ：誤り。事故対応や記録に必要である。

総合解説：処理後は製品表示に従って換気、清掃、立入制限解除等を適切に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0146 薬剤・安全管理>安全管理・法令・効果判定 | 難易度：標準

多数の利用者がいる建築物で薬剤処理を計画する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア. 処理区域を秘密にして利用者を通常どおり入室させる。
- イ. 薬剤名や注意事項を誰にも伝えない。
- ウ. 乳幼児や患者がいる区域ほど在室中に処理する。
- エ. 処理日時、区域、方法、注意事項等を事前に周知し、必要な立入制限や掲示を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。安全配慮に欠ける。
- イ：誤り。事故時の対応を困難にする。
- ウ：誤り。高感受性者への曝露を避けるべきである。
- エ：正しい。利用者への情報提供は曝露防止に重要である。

総合解説：薬剤使用は防除作業者だけでなく建物利用者の安全を含めて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0147 薬剤・安全管理>安全管理・法令・効果判定 | 難易度：標準

噴霧型殺虫剤を扱う作業者の安全管理として最も適切なものはどれか。

- ア. 製品表示や作業リスクに応じて適切な防護具を使用し、薬剤の吸入・皮膚・眼への曝露を避ける。
- イ. 素手・無防護で薬液を調製する。
- ウ. 防護具が汚染しても清掃・交換せず使い続ける。
- エ. 薬剤散布中に飲食する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。薬剤の性状と処理法に応じたPPEが必要である。
- イ：誤り。曝露リスクが高い。
- ウ：誤り。二次曝露につながる。
- エ：誤り。経口曝露の危険がある。

総合解説：防除業務では薬剤取扱い、器具、PPE、立入管理、換気を一体で安全管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0148 薬剤・安全管理>安全管理・法令・効果判定 | 難易度：標準

殺虫剤使用中に作業者が体調不良を訴えた。最も適切な対応はどれか。

- ア. 作業を続ければ慣れると考えて処理を継続する。
- イ. 直ちに曝露を止め、安全な場所へ移動し、製品名・成分・曝露量・経路を確認して必要な医療対応につなげる。
- ウ. 薬剤容器を捨てて成分情報を失う。
- エ. 症状を隠して誰にも報告しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。健康被害を悪化させる。
- イ：正しい。事故時は曝露中止と原因製品情報の把握が重要である。
- ウ：誤り。医療判断に製品情報が役立つ。
- エ：誤り。適切な安全対応を妨げる。

総合解説：安全管理では事故時の連絡体制をあらかじめ定め、製品情報を保管して迅速に対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0149 薬剤・安全管理>安全管理・法令・効果判定 | 難易度：標準

薬剤処理後の防除効果を客観的に判定する方法として最も適切なのはどれか。

- ア. 薬剤を使用しただけで成功と判断する。
- イ. 処理後は調査を全て中止する。
- ウ. 処理前と対応する調査方法で再調査し、生息密度や捕獲指数が目標水準まで低下したか確認する。
- エ. 処理前と無関係な指標だけを測る。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。実際の生息状況を確認していない。
- イ：誤り。効果判定ができない。
- ウ：正しい。前後比較できる方法で評価する必要がある。
- エ：誤り。比較可能な生息指標を用いるべきである。

総合解説：効果判定で目標未達なら、原因を分析し、処理法・薬剤・環境対策を見直して再措置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0150 薬剤・安全管理>安全管理・法令・効果判定 | 難易度：応用

薬剤処理後も害虫密度が高いままである。安全かつ有効に再計画するための手順として最も適切なのはどれか。

- ア. 原因を調べず同じ薬剤を最大量まで増やす。
- イ. 調査記録を廃棄し、防除前後を比較できなくする。
- ウ. 発生源を残したまま、利用者区域だけを繰り返し散布する。
- エ. 生息調査をやり直し、発生源、処理位置、使用量・方法、抵抗性、侵入経路を確認し、必要な環境・物理・化学的対策を再構成する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。安全性と抵抗性管理に反する。
- イ：誤り。改善の根拠を失う。
- ウ：誤り。再発原因を除去できない。
- エ：正しい。効果不良を単純な薬剤不足と決めつけず、IPM全体を再評価する。

総合解説：効果判定は次の防除計画へつなげるために行う。原因分析と手段の組み替えによって、薬剤の過剰使用を避けながら管理水準を改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05